

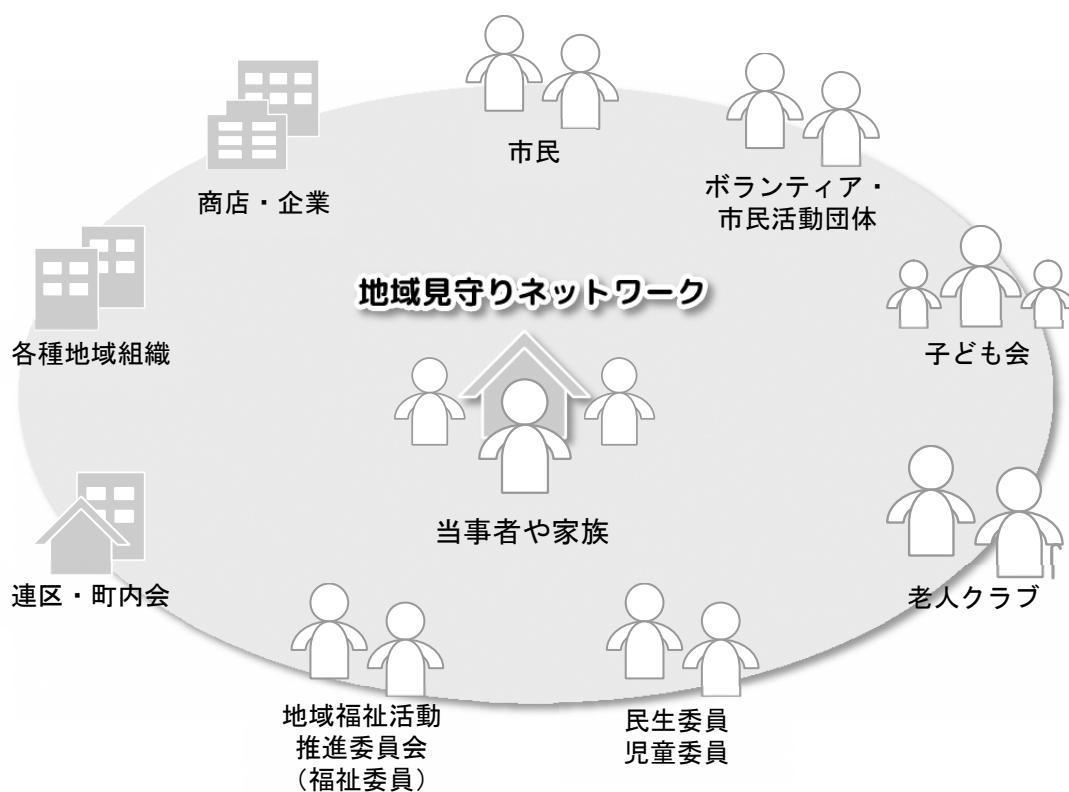
第5章

地域の取り組み

社会福祉協議会では、10 中学校区 34 地区において、地域における共助を育む機会として、ワークショップ形式による地域福祉懇談会を開催しました。

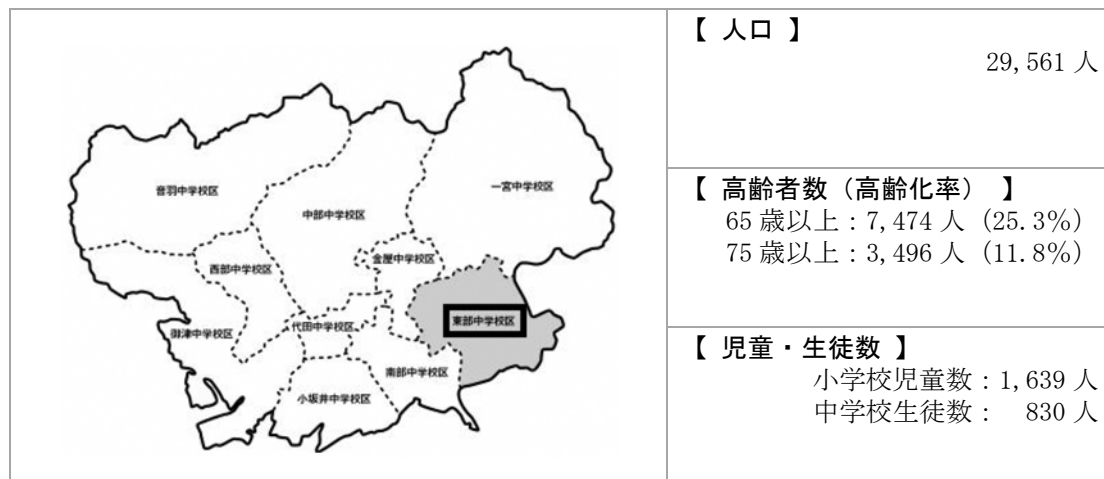
各地区の「地域のよいところ」や「地域の課題」を明らかにするとともに、地区ごとの「まちづくりのテーマ」を定め、今後の方向性として、「地域における取り組み」や「5年後のまちの姿（目標）」を検討しました。

■社会福祉協議会が進める地域見守りネットワーク（イメージ図）



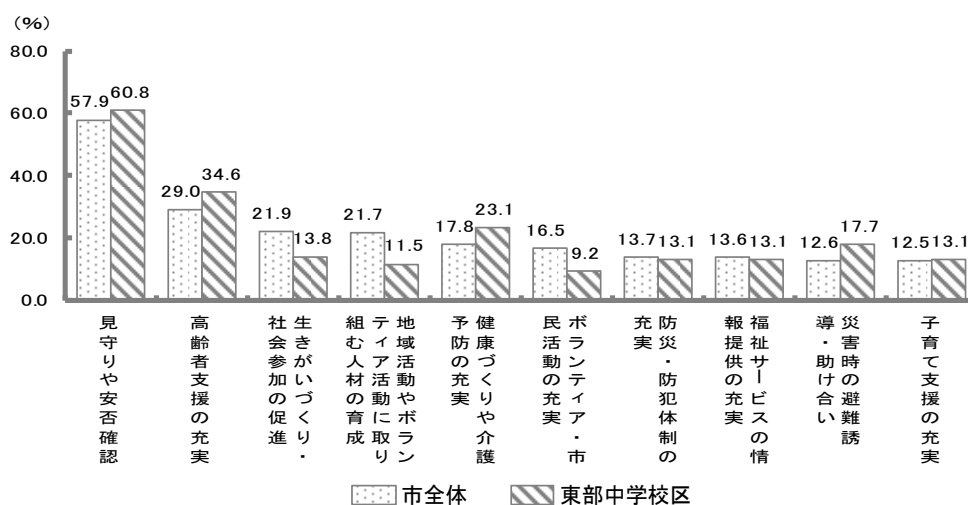
1 東部中学校区懇談会

○ 基礎データ



人口、高齢者数：住民基本台帳（平成 29 年 4 月 1 日現在）
児童・生徒数：豊川市の統計（平成 29 年 5 月 1 日現在）

○ 誰もが安心して暮らしていくために、地域で特に重要なこと（上位 10 項目）



資料：地域福祉活動に関する活動者アンケート（平成 28 年）

○ 地域特性と懇談会の開催概要

東部中学校区は、市内東部に位置する地域で、人口は 29,561 人と市内中学校区の中で最も多く、高齢化率は 25.3%となっています。

活動者アンケート調査で、東部中学校区は市全体に比べて、「高齢者支援の充実」「健康づくりや介護予防の充実」「災害時の避難誘導・助け合い」などへの関心が高くなっています。

地域福祉懇談会は、7 地区に分かれて話し合いが行われ、延べ 88 人の方にご参加いただきました。

1－（１）桜木地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 災害が少なく、自主防災制度が確立している。 ・ 防犯灯が整備されている。 ・ 公園があり、買物に都合の良い立地である。 ・ 老人クラブで公園や集会所の掃除・草取りをしている。 ・ ふれあいサロンに多くの人に参加している。	・ 町内会の加入率が低い。 ・ 高齢者の見守りを行うのに情報が少なく、状況もわからない。 ・ 若い世代や働き盛りの方との交流の接点がない。 ・ ふれあいサロン参加者の女性が多く男性が少ない。

②まちづくりのテーマ

楽しい行事が多いまち



③５年後のまちの姿（目標）

- ・ 世代を越えて町民が活躍できるまち
- ・ お互いに声をかけ合い、行事等に参加できるまち
- ・ 三世代交流でふれあいが進むまち
- ・ 子どもの見守りができるまち
- ・ 災害に対応できるまち

④今後の方向性

基本目標１ 知りましょう	基本目標２ 参加しましょう
・ 福祉会のふれあいサロンの充実を図る。 ・ 市民館を有効活用し、世代間交流の充実を図る。 ・ 子どもとグラウンドゴルフ等、コミュニケーションの場を学校・地域で推進する。	・ 町内の行事に参加する。ラジオ体操・盆踊り・祭り等。 ・ 高齢化を見込み、町内会や委員会に若い人も誘い、世代をつなげられる組織にする。
基本目標３ 活用しましょう	基本目標４ 広げましょう
・ ひとり暮らし高齢者宅の近隣の家に、目配り・気配りの依頼をする。 ・ まちの不便な点や、改善点等、要望をあげていく。	・ 子どもの下校時に家の前で見守りをしてくれる人を増やす。 ・ 自主防災会の活動を活発化し人数を増やす。 ・ 交差点にはみ出した植物を整理し、事故を防ぐ。 ・ 個々に災害への備えを行う。

1－（２）豊地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
- 多くの地域で、豊小学校へのボランティア活動を行っている。 - 子どもから大人まで、挨拶ができています。 - 住民とのつながりが良く、行事に積極的に参加してくれる人が多い。 - 近くに店や郵便局、病院等があり便利。	- 町内会への未加入者や退会者が増えたり、老人クラブ等団体の役員の選出に苦労している。 - 町内会未加入の人の状況が確認しにくい。 - 地域福祉活動推進委員会やふれあいサロン活動が十分に周知されていない。 - ゴミ出しのマナーが悪いところがある。 - 区画整理で道路や交差点が増えたので事故が心配。

②まちづくりのテーマ

顔の見えるまち豊



③5年後のまちの姿（目標）

- 誰とでもあいさつができるまち
- 気軽に集まり、ふれあいや交流ができる場所のあるまち
- 高齢者から子どもまで、地域皆でお互いに助け合えるまち
- 防災用品がしっかりと整理され、いざという時に災害の少ないまち
- 交通事故ゼロのまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
- 外出時、出会った人に挨拶する。 - 町内の各団体が連携し活動できる環境づくり。 - ひとり暮らしの高齢者や60代の人のサロン活動への参加を促す。 - 町民全員対象に、福祉や交通に関する講座の開催。	- 高齢者と豊小学校や保育園児等の交流を行う。 - お祭り・盆踊り活動への活動参加の促し。 - 町内会未加入の人へイベントへの参加を促し、その場で加入のメリットを呼び掛ける。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
- 回覧板の内容の周知のため見やすく楽しい内容を心がける。 - 市民館等である生涯学習活動を利用し、介護予防や生きがいをみつける。	- 地区で行っている「朝の交通呼びかけ」「レッドライト」作戦の更なる展開。 - ゴミが安全に捨てられるステーション場所の検討。 - 子どもの見守り等、高齢者の活動の場を検討する。

1－（3）古宿・馬場地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
- 公園・駅・店舗・病院が近く交通の便が良い。 - 市民館の利用率が高い。 - 町内会での活動に皆が積極的に参加している。 - 町内のまとまりがあり、子どもも増えた。 - 区画整理により道が明るくなり防犯になっている。	- 町内会役員の受け手がなかなかいない。 - 高齢者・独居世帯が増加しているが、つながりが薄くなっており、顔が見えない。 - 防災放送のスピーカーが2ヶ所あり聞き取りにくい。 - 若い人の町内行事への参加が少ない。 - 危険な交差点がある。

②まちづくりのテーマ

人と心が行き交うまち



③5年後のまちの姿（目標）

- 老人青年部があるまち
- 三世代交流の活動が多いまち
- 挨拶をし合えるまち
- 防災意識の高いまち
- 交通マナーの高いまち

④今後の方向性

基本目標1 知りましょう	基本目標2 参加しましょう
- 声かけ運動をする。 60歳～70歳までの若手の老人クラブを作る。 - 若手の役員を選出する。 - 世代間の交流をしていく。	- 三世代交流ラジオ体操の充実。 - ラジオ体操への協力を子ども会へ働きかける。 - ふれあいサロンへの参加者を増やすため、様々な内容を行う。
基本目標3 活用しましょう	基本目標4 広げましょう
- 市民館の活用の検討。 ①人がいる木・金・土・日の午後の開放。 ②囲碁・将棋ができる。	- 地域を挙げて交通安全教育を行う。 - 避難訓練を工夫して行う。 - ふれあいサロンで交通マナーの勉強の機会を増やす。 - 防災無線の有用性の検証をする。

1－（４）豊川地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 地域のお祭りが盛ん。 ・ 高齢者が生活しやすい。 ・ 交通の便が良い。 ・ 三世代交流が盛ん。 ・ 街灯が多く、防犯に良い。	・ 町内の戸数が減っており、転入者との地域のつながりが少ない。 ・ 高齢者が多いが、老人クラブへの加入が少ない。 ・ お祭りなどで、町内会役員の負担が大きく、町内会への加入率も低い。 ・ シャッター通りが増えている。 ・ 福祉委員はいるが、委員会の組織が無い。

②まちづくりのテーマ

声をかけ合う豊川連区



③５年後のまちの姿（目標）

- ・ 老人クラブや町内会が魅力あるまち
- ・ ふれあいサロンや老人クラブに女性も男性も多く集まるまち
- ・ 地域の伝統を守り、次世代につなげられるまち
- ・ 児童や生徒の通学路の安全が確保できるまち
- ・ 地域のサークル活動やＰＴＡ活動など、男女ともに参画できるまち

④今後の方向性

基本目標１ 知りましょう	基本目標２ 参加しましょう
・ 小学校や中学校との連携。 ・ 若い世代にボランティア参加をアピールする。	・ 町内会加入者の増加。 ・ 福祉委員の設置・存続。 ・ 老人クラブの加入につなげるため、名称の変更を検討。 （シニアクラブや地域ふれあいクラブ等） ・ 町内会を通して、人的交流を促進する。 ・ まとめ役を作って、気軽に集まることができる場所の検討。
基本目標３ 活用しましょう	基本目標４ 広げましょう
・ おやじの会の活性化を図る。（子育て支援）	・ 自主防災会の活性化を図る。 ・ 防犯カメラの設置等により、防犯ネットワークの活性化。

1－（５）麻生田地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ サロン活動が活発で、男性参加者が多い。 ・ 様々な行事を行っている。 ・ 通学路が整備され、カープミラーも増えたので、子どもが安全になった。 ・ 公園がリニューアルしてきれいになった。	・ 町内会の加入率が低く、青年団も低迷している。 ・ 若者がまちから出て行ってしまい、新しく転入してきた世帯との交流が少ない。 ・ 独居高齢者が増えてきた。 ・ 新たにボランティアに参加する人が少ない。 ・ 防犯上の不安がある。

②まちづくりのテーマ

あいさつがさかんな
麻生田連区



③５年後のまちの姿（目標）

- ・ 若い人が地域の活動に参加しやすいと思うまち
- ・ サロン活動が活発なまち
- ・ 麻生田地区市民館を有効に活用できるまち
- ・ 地域の人々が色々な活動をできる場所があるまち
- ・ 子どもの安全が守られるまち

④今後の方向性

基本目標１ 知りましょう	基本目標２ 参加しましょう
・ ふれあい図書サロンを継続する。 ・ 活動者の拡大を図る。 ・ 活動者の負担にならない活動をする。 ・ サロンを通じて若い人に参加しやすい雰囲気をつくる。	・ 青年団活動の内容を周知する。 ・ 若い人の活動場所がある。 ・ サロンへの参加者を増やすために、呼びかけをしていく。
基本目標３ 活用しましょう	基本目標４ 広げましょう
・ 麻生田地区市民館の存続の活動をする。	・ 健康促進を兼ねて子どもの見守りを行う。 ・ 見守り隊の活動を継続していく。

1－（6）三上地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 月1回、全世帯対象の寄り合いがあり、情報交換の場となっている。 ・ ほとんどの人が町内会に加入し、顔が良く見えている。 ・ 町内体育大会でいろいろな世代と交流を図っている。 ・ 高齢者が元気で、敬老会への参加者も多い。 ・ 有線放送が有効に活用されている。	・ 子どもが少なくひとり暮らし高齢者が増えている。 ・ 市民館祭りが毎年ではなく3年に1度の開催となっている。 ・ 老人クラブや、消防団への加入が少なく、ボランティアの活動者も少ない。 ・ 洪水時等に備えて、避難対策や防災訓練を7地区全部で行う必要がある。

②まちづくりのテーマ

みんなが笑顔で
あいさつできるまち



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ 若い人が町内活動に積極的に参加できるまち
- ・ 全ての世代が気軽に集まり、話ができるまち
- ・ 福祉や介護について相談しやすいまち
- ・ 交通の便の良いまち
- ・ 災害時の緊急対応や避難場所が周知され、安心できるまち

④今後の方向性

基本目標1 知りましょう	基本目標2 参加しましょう
・ 三上1区～7区、それぞれの地域でのサロン活動開催を目指す。 ・ 若い人が町内会に参加できるよう世代交代を図る。	・ 町内の人が多く参加している市民館祭りのような機会を毎年設けるようにする。（市民館祭りぐらいの規模だと大変なので無理なくできる範囲内の行事で）
基本目標3 活用しましょう	基本目標4 広げましょう
・ 交通手段の少ない所へのコミュニティバス設置の働きかけ。 ・ 困りごとを話しやすい雰囲気を作る。	・ 災害時（洪水等）の避難場所を確保する。 ・ 行政の行う防災無線と町内の有線放送をタイアップして、更なる有効活用を図る。

1－（7）睦美地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 静かで空気がきれいな土地であり、歴史上の史跡もある。 ・ 町内行事には協力的である。 ・ お祭りでは老若男女ともに参加し盛り上げている。 ・ 東部小学校と連携し、三世代交流を実践している。 ・ 女性や男性がそれぞれ集まって相談している。	・ 世代間の交流が少ない。 ・ ふれあいサロンが無く、交流の機会が少ない。 ・ 町内にある小道が車の抜け道になっており、歩行者が危険になっている。 ・ 高齢化が進み若者が減った。老人クラブの加入も激減している。 ・ 自主防災会の活動が少ない。

②まちづくりのテーマ

誰とでも明るくあいさつが
できる顔見知りのまち



③5年後のまちの姿（目標）

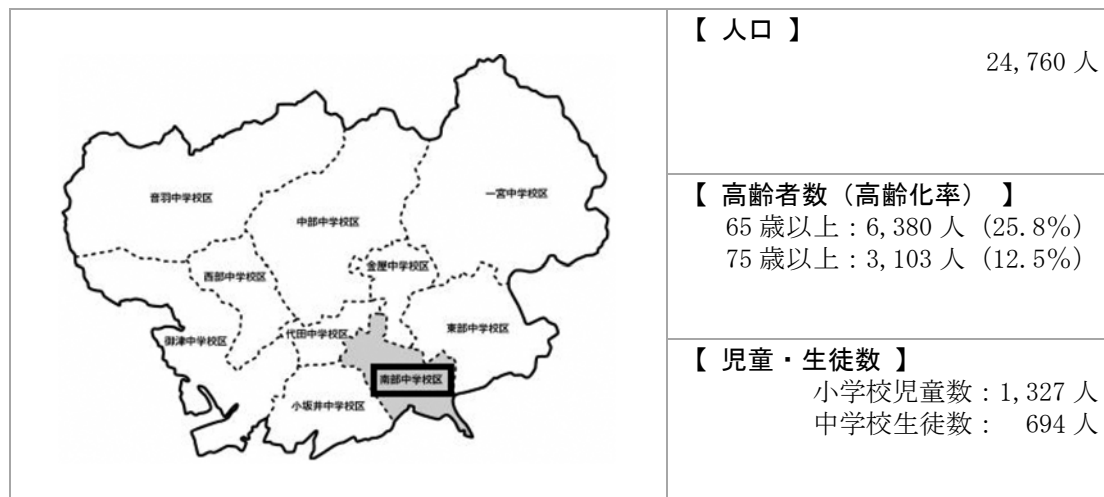
- ・ 様々な年代がそれぞれ活躍できる行事のあるまち
- ・ 気軽に集まり、話し合える場所のあるまち
- ・ 町内の人の情報が共有でき、誰とでも気軽に助け合えるまち
- ・ 防災意識を高め、心から安心して生活できるまち
- ・ 退職後、地域での活動にデビューできるまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ 老人クラブの会員を増やしたり、復活を目指す。 ・ ふれあいサロン活動の開催。 ・ 盆踊りの復活。 ・ 世代間交流の機会を多く持つ。 ・ あいさつ運動を行う。	・ 町内の枠を超えて、情報交換する機会をつくる。（例えば、公園の草刈り行事を通して） ・ 地域みんなでお互いを見守る。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 自主防災会の活性化を図る。（町内会員の家族構成の把握や定期的に変更点を確認する）	・ 災害時に対応できるようしっかりと組織づくりをする。

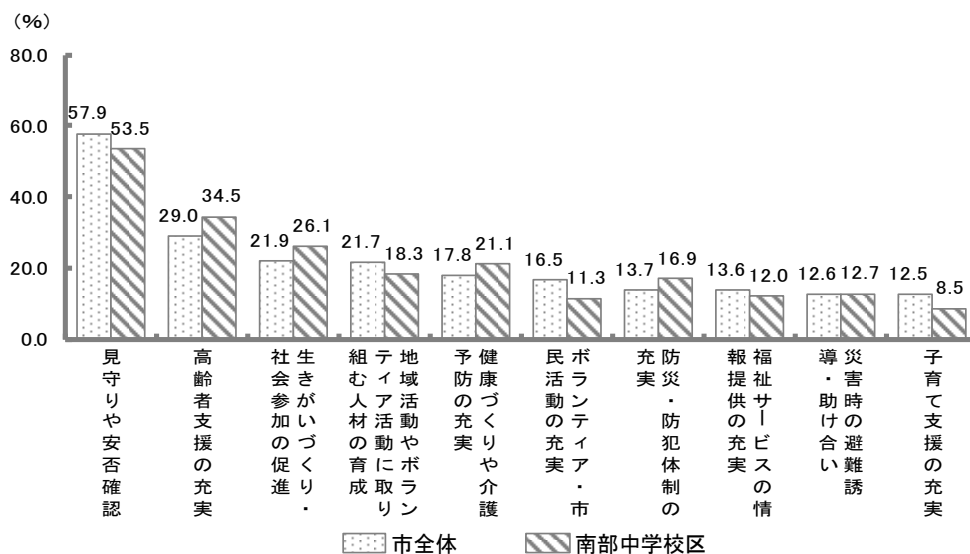
2 南部中学校区懇談会

○ 基礎データ



人口、高齢者数：住民基本台帳（平成 29 年 4 月 1 日現在）
 児童・生徒数：豊川市の統計（平成 29 年 5 月 1 日現在）

○ 誰もが安心して暮らしていくために、地域で特に重要なこと（上位 10 項目）



資料：地域福祉活動に関する活動者アンケート（平成 28 年）

○ 地域特性と懇談会の開催概要

南部中学校区は、市内南部に位置する地域で、人口は 24,760 人、高齢化率は 25.8%となっています。

活動者アンケート調査で、南部中学校区は市全体に比べて、「高齢者支援の充実」への関心が高くなっています。

地域福祉懇談会は、7 地区に分かれて話し合いが行われ、延べ 59 人の方にご参加いただきました。

2－（１）牛久保地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ ふれあいサロンや見守り活動が活発である。 ・ 隣近所のひとり暮らしの方へのおすそ分け（野菜、おかず等）ができる。 ・ ひとり暮らし高齢者が多いので、民生委員、福祉委員、老人クラブでフォローをしあっている。 ・ 駅が近く、バス停もある等交通の便も比較的良好、また、治安、防犯面でも安心、安全な地域。	・ 各組織、町内会、氏子総代、民生、福祉、防災、防犯、福祉委員等、役員のなり手がいない。 ・ 防災活動が町内により温度差（レベル差）がある。 ・ 今ある行事の参加率を上げる工夫とし、女性の意見が行事に反映できるようなシステムが必要。 ・ サロン活動に参加する人は98%女性のみ。男性の参加者が少ない。

②まちづくりのテーマ

子どもから高齢者まで
顔の見えるまち



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ 三世代が交流できる行事が多く、地域の繋がりが深まるまち
- ・ 町内の組織の重要なポスト（役員）に女性が多く就任しているまち
- ・ 地域の交流イベント！ 夏まつり「和っしょい」が年1回継続できているまち
- ・ 生きがいある町づくりに自主的に参加するまち
- ・ 防災訓練が町内ごとに定期的の実施できているまち

④今後の方向性

基本目標1 知りましょう	基本目標2 参加しましょう
・ 空き家対策とふれあいサロン活動。 ・ 高齢者と子どもが交流できる行事の継続。	・ 女性が参加しやすい組織。 ・ リーダー同志の交流。 ・ 特技や知識のある人の活用。 ・ 町内組織の役員や委員の役割分担を明確にする。 ・ 各種団体が連携を強化して、魅力あるイベントづくり。
基本目標3 活用しましょう	基本目標4 広げましょう
・ 参加して楽しむ（受動）だけでなく、人のために意欲的に活動する（能動）。	・ 高齢者に対する交通安全教育を年に2～3回行う。 ・ ひとり暮らし高齢者や高齢世帯を対象に、防災意識（火災報知器や家具固定）を高めるような声掛けを行う。

2－（２）下長山地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
- 町内会は連区長、区長を中心に、各種団体、委員が組織されており、日々活発な活動をしている。 - 各団体で見守りネットワークがある。 - 防犯灯がたくさんついている。 - まちがきれいで住みやすい町内。	- 見守りが必要な人が町内会に加入していないし、町内会へ加入する人も減っている。また、お役を引き受けてくれる人がいない。 - 国道一号線から中条までの県道が危険。 - 地区を巡回するバスが通っていない。 - 歩道が狭くて危ない箇所がある。 - 高齢化が進んでいる。

②まちづくりのテーマ

あいさつで出会いの
できる下長山



③5年後のまちの姿（目標）

- お互いのことに関心を持ち、「あいさつ」ができ、お互いの顔が見えるまち
- 地区内の活動について「回覧板」を利用して情報共有し、他の活動を理解し、町民が協力しあえるようなまち
- 仕事を分担しながら町内会に大勢の人が参加できるまち
- 必要に応じて町内の行事を見直し、皆が参加しやすいようにするまち

④今後の方向性

基本目標１ 知りましょう	基本目標２ 参加しましょう
• 年に２回の清掃活動時の声の掛け合い。 • 学校行事へ地域住民が講師として参加。 • 登下校時の子どもたちとの「あいさつ」。	• 町内会への加入を継続的に呼びかける。 • 町内の仕事の内容を見直し、重複しているコト、モノをはぶく。 • お役の仕事を減らすなどの分担化。 • 町内活動を３区合同でやることと、区毎に分けてやることを分担する。 • 団体の役員同士の情報共有と支え合い。
基本目標３ 活用しましょう	基本目標４ 広げましょう
• 回覧板を利用して、様々な情報の発信や町民からの意見（危険箇所等）の吸い上げ。 • 災害時に相談する人や場所の明確化。	• 交通安全週間に歩道橋での安全見守り。 • ゴミステーションでの声掛け。 • お祭りや防災活動への関わり。

2－（3）中条地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 町内行事を通して各種団体が協力しあっている。 ・ 交通の便が良く、買い物が便利で病院も近い。 ・ 自然に恵まれていて、災害も少ない。 ・ ご近所付き合いがあるので、犯罪が少ない。	・ 福祉委員などの「お役」が交替するタイミングをずらしていくような体制が必要。 ・ 支援を必要としている方の情報がないため、声掛けなどの支援を行なえていない。 ・ 区毎の各役職の集まりが少ない。役員を引き受けてくれる人がおらず、人選に苦労する。 ・ 防災無線が聞き取りにくい。また、市民館の防火・防災訓練はマンネリ感がある。

②まちづくりのテーマ

子どもと大人が手をつなぐ
安心安全のまち



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ ひとり暮らしの方が孤独にならないよう、隣近所で気軽に挨拶近況を話あえるまち
- ・ 無関心にならないように地域全体で子どもやお年寄りを見守れるまち
- ・ 役員の交代が組織のリーダーシップのもとでスムーズに行えるまち
- ・ 団体間のネットワークを深めるため、共催イベント等が開催できるまち
- ・ 防災訓練、お祭り、市民館祭りなど、多くの住民が参加するまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ 区長、民生委員、福祉委員と一緒にサロンの参加者と昼食を食べて交流する。 ・ 町内イベントの周知と参加の呼びかけ。	・ 各団体間の交流と団体活動のオープン化。 ・ 地区の役員の選出方法の再検討。 ・ 人材の発掘（意欲的な方への促し）。 ・ 縦横の組織づくりを考える。 ・ 町内会未加入者への加入方策の検討。 ・ ひとり暮らし高齢者の見守りを自治会、民生委員、福祉委員で連携して行う。 ・ 両隣の付き合いを広げ、皆が関わる付き合いを心がける。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 各団体の活動を地域住民へアピールする。 ・ 高齢者の住まいに関する情報の共有。	・ 防犯、防災訓練や高齢者との交流等、地域住民が多く参加可能な行事の企画。

2－（４）下郷地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 農家とサラリーマンが共存している。 ・ 子どもが健全で、農業を楽しむ人が多い。 ・ 生活に困窮している方が少ない。 ・ 登下校時の学童の見守りを防犯会が中心となり毎日実施している。 ・ アパート、借家住まいの人がいないので、身内の家族同様と考えたお付き合いができる。	・ 町内間のコミュニケーションが不足している。 ・ 公園などの交流の場所が少ない。 ・ 盆踊りスタッフの確保に問題がある。 ・ 市民館（公民館）の有効的な活用ができていない。当番制の鍵当番の廃止等を検討する。 ・ 子どもたちの通学路の安全確保ができていない。

②まちづくりのテーマ

ミドリ多く心豊かな町



③５年後のまちの姿（目標）

- ・ 下郷連区全体で集える場所があり、見守り活動と青パト運動が充実したまち
- ・ 女性の活動が目立つ、輝く雰囲気をもったまち
- ・ 中間世代を巻き込んだ全世代的な交流ができるまち
- ・ 各防災会の横断的連携を図り、下郷連区として防災力が強化したまち
- ・ コミュニティバスが運行しているまち

④今後の方向性

基本目標１ 知りましょう	基本目標２ 参加しましょう
・ 世代間が意見交換する場の創設。 ・ 市民館の有効活用方法の検討。 ・ 世代間交流の推進（子ども会×老人クラブ）。 ・ 交流、サロン活動の充実（より近くに）。 ・ 健康づくりの為に楽しい交流の機会。 ・ 老人が楽しんで外出する機会の提供。	・ 人材の育成と強いリーダーの養成。 ・ 連区長、区長の人選方法の見直し。 ・ 連区と各種団体の長との話し合い。 ・ 各世代が望んでいるまちの姿の集約。
基本目標３ 活用しましょう	基本目標４ 広げましょう
・ サロンへ行くまでの足がないため、移動についてのサポート。 ・ 見守り等のメンバー募集に伴う区長との協力体制の構築。	・ 消防団 OB を中心とした防災会の設置。 ・ 災害時を想定した避難訓練の実施。 ・ コミュニティバスの早期運行実現へ向けた検討。

2－（５）中部西地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 交通の便が良く、商店も近くて便利な地域。 ・ 地区市民館の利用率が高い。 ・ ボランティアの参加が多い。 ・ 佐奈川の堤防が整備されたので、ウォーキングや犬の散歩をする人が多い。（健康づくり） ・ 夜間の街路灯が整備されたので、防犯に強い地域になっている。	・ 児童への見守り活動は行われているが、高齢者に対する見守り活動は不十分。 ・ 若い人の町内会活動への参加が少ない。 ・ 集合住宅居住者の町内会加入が低い。 ・ 福祉会活動（サロン）へ参加ができない人へのサポートが十分でない。 ・ 町内役員への希望者が極めて少ない。

②まちづくりのテーマ

中長期課題を考える
P.T※が活動するまち



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ 行き交う人々に気やすく「声掛け」「あいさつ」ができるまち
- ・ 地区市民館のフリースペースに多くの方々が集うまち
- ・ 町内会の交流の「場」やお互いに話し合う「場」が多いまち
- ・ 町内会、老人クラブ、子ども会、福祉会などの組織が連携しているまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ ふれあいサロン活動の活性化。 ・ 高齢者や子どもに対する声かけ運動。	・ 町内会をサポートする方々の任期を2～3年にし、継続性を高める。 ・ 町内会の各組織の連携とリーダーの育成。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 町内会にある諸々の組織が、その概要を地域住民へ知らせる広報を作成する。 ・ 町内の情報を地域の皆さんに気付いてもらえるような広報づくり。	・ 子どもに対する心配り、気配り、目配り。 ・ 避難訓練の定期的な開催。

※P.T：プロジェクトチーム。

2－（6）中部南地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 高齢者に対して老人クラブと福祉会が連携した活動ができています。 ・ 近くに商業施設ができて買い物が便利になった。 ・ 町内会、老人クラブ、サロン会等がしっかり活動している。 ・ 若い世帯主が多くなった。また、盆踊りなどの町内連区の行事への参加者も多い。	・ ひとり暮らしの高齢者で町内会へ入らない方もいるので情報がない。情報がないため支援への動きがとれない。町内会への加入促進が必要。 ・ 町内会、老人クラブ、サロン会、民生委員、福祉会の横のつながりがまだ少ない。 ・ 公民館や市民館の広さ設備に限界があるため、多くの人が入れないところもある。

②まちづくりのテーマ

笑顔で素晴らしい町
活動しやすい町



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ 高齢者を気遣い、楽しく遊べるサロンがあるまち
- ・ 空き家を利用して、いつでも立ち寄れる場所があるまち
- ・ 地域のいろいろなグループが交流できる場所と時間があるまち

④今後の方向性

基本目標1 知りましょう	基本目標2 参加しましょう
・ 高齢者と子どもが交流するふれあいサロン活動（福祉会と子ども会の連携）。 ・ サロンとしての市民館まつりへの参加。 ・ ふれあいサロンの中で、参加された方々の健康維持を目的とした「学び」を取り入れる。	・ 企画力のある人材の発掘とリーダーの育成 ・ 町内会への加入促進の啓発。
基本目標3 活用しましょう	基本目標4 広げましょう
・ 健康維持のための遊びを取り入れ、周知している。	・ 佐奈川の景観を守るための雑草への対応。 ・ 防犯活動を通しての「空き家」の把握。

2－（7）中部東地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 町内が綺麗で住みやすく、コンビニや店も多いため便利なまち。 ・ 町内会による夜間パトロールの実施（明野） ・ 月1回の町内会会議が行えている。 ・ 校区の運動会への参加率が大変高いなど、校区行事での住民同志の団結力が強い。	・ 町内会役員の成り手不足。 ・ それぞれの活動はしているが、活動者同士の交流が足りない。 ・ 全体的に高齢化。独居老人が増えてきている。 ・ 地域福祉の問題はすぐには結果の出る問題ではない。時間と努力が必要。

②まちづくりのテーマ

犯罪のない
明るいきれいなまち



③5年後のまちの姿（目標）

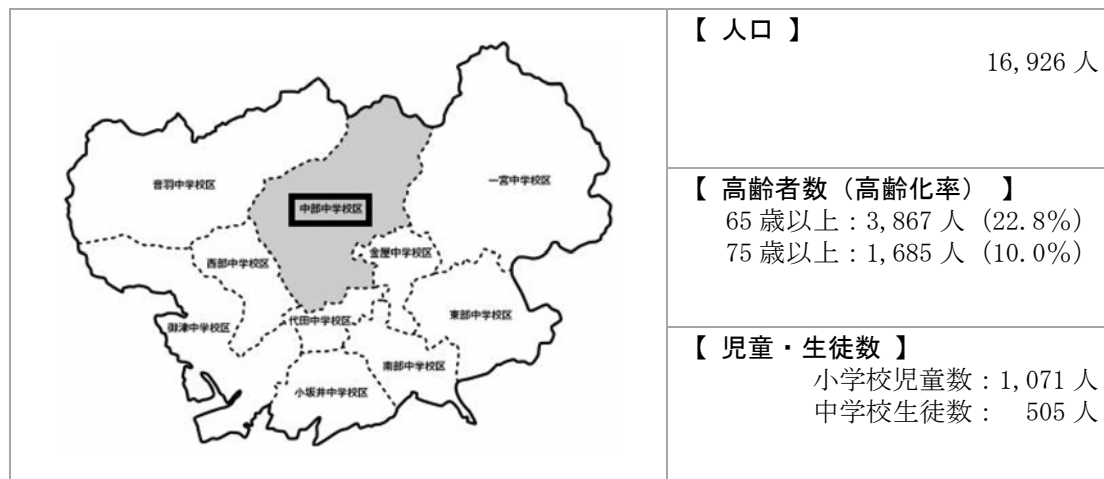
- ・ 隣近所の付き合いの中で、安否確認ができるまち
- ・ 地域行事に自発的に参加できる人づくり
- ・ 校区行事が継続的に実施されているまち
- ・ 子どもが安心して遊べるまち
- ・ 防災対策ができているまち

④今後の方向性

基本目標1 知りましょう	基本目標2 参加しましょう
・ 気軽に立ち寄れ、雑多な会話ができる場の提供（例：公民館の開放）。 ・ 福祉の認識を高めるための勉強会の開催。 ・ 本音で語れる場所の確保。	・ 町内会役員の育成。 ・ 世代間交流などお互いを知る機会を提供し、周囲への関心や意識の高い“人財づくり”へ繋げる。
基本目標3 活用しましょう	基本目標4 広げましょう
・ 福祉に関する草の根的な意識の啓発。	・ 防犯、防災に関する情報の共有。 ・ 昼夜問わずの継続的なパトロール。

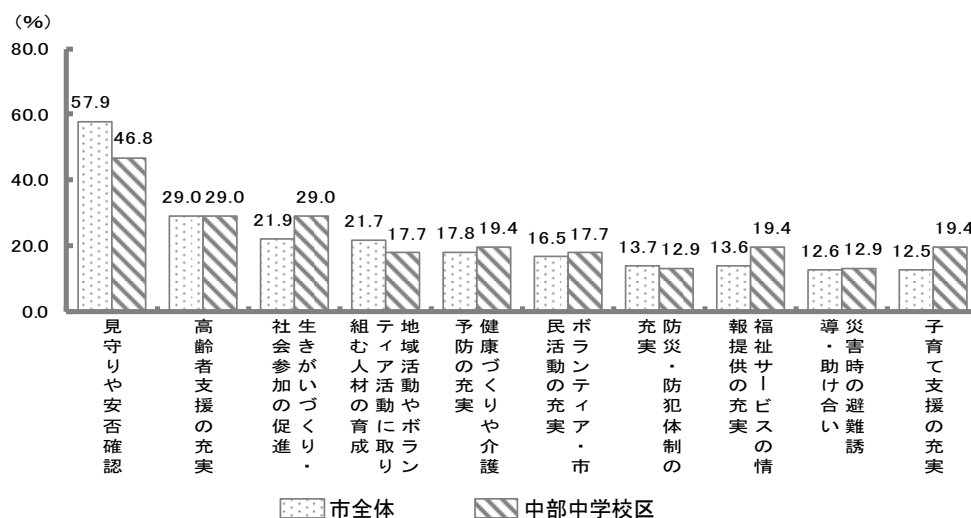
3 中部中学校区懇談会

○ 基礎データ



人口、高齢者数：住民基本台帳（平成 29 年 4 月 1 日現在）
児童・生徒数：豊川市の統計（平成 29 年 5 月 1 日現在）

○ 誰もが安心して暮らしていくために、地域で特に重要なこと（上位 10 項目）



資料：地域福祉活動に関する活動者アンケート（平成 28 年）

○ 地域特性と懇談会の開催概要

中部中学校区は、市内北部に位置する地域で、人口は 16,926 人、高齢化率は 22.8%となっています。

活動者アンケート調査で、中部中学校区は市全体に比べて、「生きがいのづくり・社会参加の促進」「福祉サービスの情報提供の充実」「子育て支援の充実」などへの関心が高くなっています。

地域福祉懇談会は、3 地区に分かれて話し合いが行われ、延べ 35 人の方にご参加いただきました。

3－（１）八南地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 田畑があり、自然が豊かである。 ・ 地域福祉活動が活発。 ・ 近所付き合いが盛ん。人との繋がりが強い。 ・ 地区市民館では生涯学習が盛んに行われている。 ・ 老人クラブの活動が活発。	・ サロンの活動内容や参加者の拡充。 ・ 交通量が多く、事故の心配がある。 ・ 防災訓練の場の活用の検討。 ・ コミュニティバスのルート変更。町民館経由。 ・ 町内会に参加していない方への対応。

②まちづくりのテーマ

支え合い助け合いが
出来るまち



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ 三世代交流が盛んなまち
- ・ 防災意識の高いまち
- ・ ボランティア活動や町内活動が盛んなまち
- ・ 隣近所同士で声掛けが出来るまち
- ・ サロン活動が活発なまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ 支え手世代の参加促進。 ・ 今まで以上に隣近所で声の掛け合いを行う。	・ 三世代交流を広めたい。 ・ 子ども会、老人クラブへの活動の参加を促す。 ・ 町内会への加入の促進。 ・ 各世代で連帯してのサロン開催の実現。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 救急講習会を各地区で年に 1 回程度実施。	・ 土嚢やテント、AED の用意など、非常時の取り組み。 ・ 朝の交通見守り、人員増必要。 ・ 防災訓練の実施や場の活用。

3－（２）平尾地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 地域と子どもたちとの交流が素晴らしい。 ・ 子どもの非行が少ない。犯罪が少ない。 ・ 町民が行事に協力的。気持ちよく協力し合える。 ・ 各行事への参加によって交流が図られている。 ・ 老人クラブ、サロンへの参加者が増えてきた。	・ 行事への参加者がいつも同じ。 ・ 新興住宅地が増え、交流が心配。 ・ 小規模なサロンが近くに集まれる場所に必要。 ・ ボランティア人材不足。 ・ 活動者が限定される。 ・ 子育て支援への理解不足。

②まちづくりのテーマ

地域の住民と子どもたち
との交流ができる町



③５年後のまちの姿（目標）

- ・ 小規模で身近なサロンがあるまち
- ・ 連区役員、ボランティア、校区の人の一体化。皆が活動に参加できるまち
- ・ 高齢男性が積極的に活動参加するまち
- ・ 新興地や財賀など含めての区割り。町内を大きく考える
- ・ 危険箇所をなくし、町内全体で防災訓練に取り組むまち

④今後の方向性

基本目標１ 知りましょう	基本目標２ 参加しましょう
・ 盆踊り等、行事の主催者の検討（有志か町内会か）。 ・ 子育て支援の参加者拡充。	・ 町内会のためを考えると、連区長は複数年務めた方が良いのではないか。 ・ 男性の参加者を増やす工夫が必要。 ・ ボランティア活動グループの活動支援、参加。
基本目標３ 活用しましょう	基本目標４ 広げましょう
・ 地元スーパーにも町内行事をPRする。 ・ 回覧を活用し、各団体の活動をPRする。	・ 通学路の危険箇所の整備。

3－（3）千両地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 自然がたくさんある。 ・ 千両小学校との連携が良い。 ・ 近所付き合いが良い。 ・ 粗大ごみ収集所が近くて便利。 ・ 市民館を使い、講座を活発に行っている。	・ 転入世帯が少なく、空き家が多い。 ・ 駐在所が廃止され、防犯面で少し心配がある。 ・ 祭りに青年の参加が少なく、縮小される所もある。 ・ 町内に店が無く、移動手段が無い人には不便。 ・ 災害時に市民館前の橋が壊れると避難所に来れない。

②まちづくりのテーマ

老人が元気なまち



③5年後のまちの姿（目標）

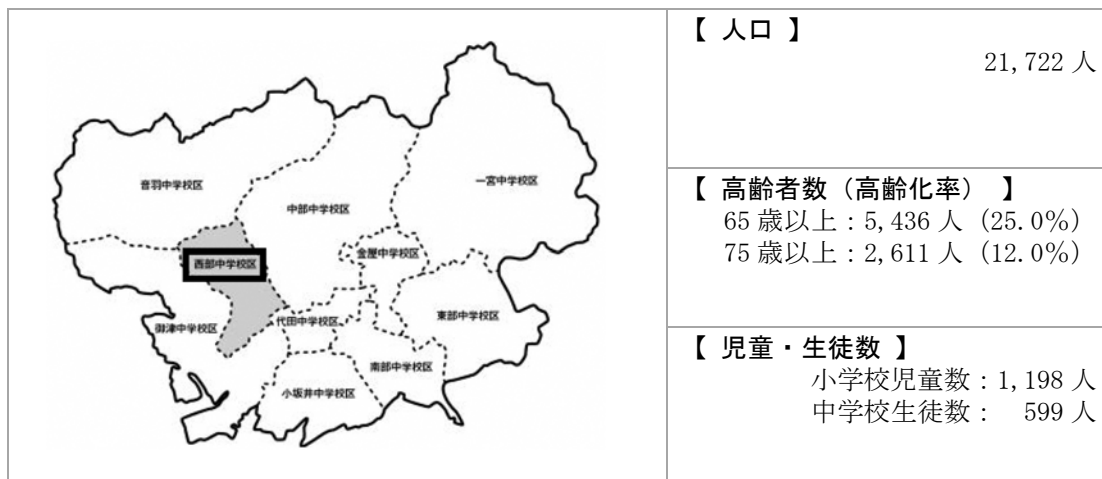
- ・ 高齢者の生きがい、やりがいのあるまち
- ・ イベント、遊びの場の環境整備。各種サークル活動が活発なまち
- ・ 災害発生時における共助体制の組織化が出来ているまち
- ・ 犯罪や交通事故が今後もないまち
- ・ 独居高齢者への見守り、生活支援への自主的な取り組みが出来るまち（老老見守り隊）

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ イベントへ連区や小学校区で取り組む。 ・ 地区市民館の有効活用（平日の利用）。	・ 役員メンバーの継続性の確保。 ・ 祭りや風習、各種サークルやコミュニティ活動の担い手の育成。 ・ 前期高齢者の活用（仕掛けづくり）。 ・ 他町内サロンとの相互交流。 ・ ボランティアのメンバー増加への取り組み。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 地域全体で福祉活動を推進する。	・ 子どもたちの遊び場の充実を図る。 ・ バス路線の見直し。 ・ 通学路の危険性の除去。 ・ 防犯灯及び必要箇所には防犯カメラの設置。 ・ 自主防災会の活性化と町民へのアピール。

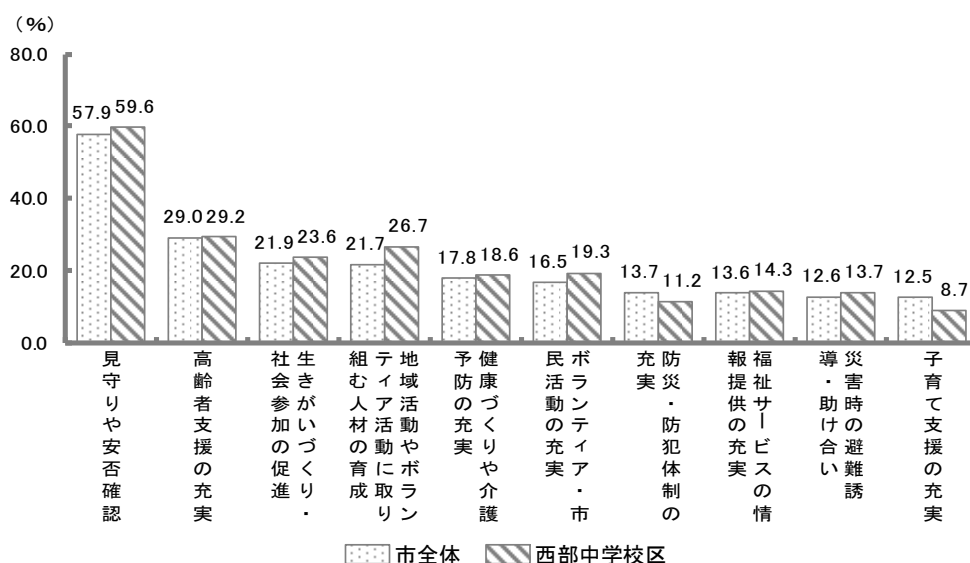
4 西部中学校区懇談会

○ 基礎データ



人口、高齢者数：住民基本台帳（平成 29 年 4 月 1 日現在）
児童・生徒数：豊川市の統計（平成 29 年 5 月 1 日現在）

○ 誰もが安心して暮らしていくために、地域で特に重要なこと（上位 10 項目）



資料：地域福祉活動に関する活動者アンケート（平成 28 年）

○ 地域特性と懇談会の開催概要

西部中学校区は、市内西部に位置する地域で、人口は 21,722 人、高齢化率は 25.0%となっています。

活動者アンケート調査で、西部中学校区は市全体に比べて、「地域活動やボランティア活動に取り組む人材の育成」への関心が高くなっています。

地域福祉懇談会は、4 地区に分かれて話し合いが行われ、延べ 81 人の方にご参加いただきました。

4－（１）国府地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 買い物が便利。交通の便が良い。 ・ 駅や学校、病院が近くにあり生活がしやすい。 ・ 犯罪や災害が少なく住みよい。 ・ 弘法山、音羽川等環境に恵まれている。 ・ お祭り等伝統行事がある。 ・ 地区行事が盛ん。（運動会、市民館祭り等）	・ 活動者の高齢化（後継者の問題）。 ・ 三世代交流の機会がまだまだ少ない。 ・ 独居高齢者・高齢者夫婦のみの世帯の増加。 ・ 高齢者や子どもに優しくない交通環境。 ・ 災害への備え（地域の協力体制や避難場所の整備）。 ・ 公園が少ない（集まれる場所が少ない）。

②まちづくりのテーマ

住んでみたいまち
笑顔であいさつ安心安全なまち



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ 地区活動やサロン活動を通じて地域住民のふれあいがあるまち
- ・ お祭り等伝統行事が受け継がれるまち
- ・ 誰とでも笑顔で挨拶が出来るまち
- ・ 交通事故や犯罪がなく、防災への備えがあるまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ 世代間交流の機会を多くつくる。 ・ 生涯学習や学校・福祉施設と連携し、知識の向上を図る。 ・ 笑顔で行き交う人同士が挨拶を行う。 ・ 若い世代が関わりやすく魅力ある行事の創設。	・ 地域で見守り、孤立高齢者をなくす。 ・ 特に 40 - 50 代が地区活動に入りやすい体制をつくる。 ・ 地域の貴重な人材の活用（得意分野で地域貢献）。 ・ 町内会、福祉会、子ども会等の横の連携を強化。 ・ 住民同士が誘い合い行事に参加できる関係づくり。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 高齢者や子ども等に対する相談支援の充実。 ・ 若い世代に活動者組織やその内容を知ってもらう。	・ パトロール隊を強化し、見守り体制の充実。 ・ 交通量の多い旧道を整備。 ・ 防災や防犯に対する講座を通して住民に啓発。 ・ 駅や学校が近く、子育てがしやすい環境をPR。

4－（２）国府東部地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ パトロール隊の組織が上手く機能している。 ・ 若い世代が増えている（特に上宿児童の増加）。 ・ 防災訓練の参加者多数。 ・ 公園内の緑化や草花の手入れ活動の常態化。	・ 行事参加者が固定化してしまっている。 ・ 福祉活動の後継者の養成がなされておらず活動が行き詰っている。 ・ 独居高齢者・高齢者夫婦のみの世帯の増加。 ・ 町内会の加入率低下、役員の成り手不足。

②まちづくりのテーマ

向こう三軒両隣り、助け合い
精神にあふれたまち



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ まちづくりに多くの人に参加するまち
- ・ 三世代交流等、世代を超えた交流ができるまち
- ・ 町内会、各種団体の後継者、リーダーを育てるまち
- ・ 支援を受ける側も支援をする側も気軽に顔の出せる雰囲気のあるまち
- ・ 防災、防犯の知識を持ち、住民同士の助け合いが出来るまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ 三世代交流事業を増やす。 ・ 挨拶や声掛けが当たり前となる関係づくり。 ・ 各団体の実行委員会形式による行事の企画・運営。 ・ 小中学生に地域活動への参加意識を育てる。 ・ 住民の意識が高揚する学習機会をつくる。	・ 町内、自警団、子供会、福祉会等各種団体同士が連携を図り、後継者・リーダーを育てる。 ・ 区の回覧板を活用し、行事の広報や人材集めを行う。 ・ 各団体同士連携を強化し危険や異変を早期発見する。 ・ 子ども、高齢者、障害者を地域で見守る意識を持つ。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 個人情報を活用出来る適切な方法の確立。 ・ 地域で独居者・要支援者等の支援組織をつくる。 ・ 区と連携し、各種団体へ資金的支援及び所有施設・備品等を無償で貸与する。	・ 児童の登下校時の見守り活動の充実。 ・ 公園の有効活用（週1回でも世代問わず集まり健康体操を行う等）。 ・ 災害時要援護者登録の申請の支援。

4－（3）国府南部地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 地域活動が盛ん（サロン、クラブ、見守り、お祭り等）。 ・ 人口が増えて来ている（直近5年で世帯数増20%の地区がある）。 ・ 災害が少ない。 ・ 道路の整備が進み、スーパーや病院も近くにあり便利。	・ 高齢化による活動者の後継者問題。 ・ 世代間交流の機会が少ない。 ・ 独居高齢者、高齢者夫婦のみの世帯の増加。 ・ 災害対策（希薄化している住民同士の協力体制や地区ごとの適切な避難場所の確保）。 ・ ルールを守らない住民の増加（ゴミの収集場所等）。

②まちづくりのテーマ

誰とでもあいさつが出来るまち



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ 地区ごとに日中誰でも集まれる場所がある
- ・ 地区や活動団体の役員になりやすい雰囲気や仕組みのあるまち
- ・ 近隣の町内との交流を増やし災害時に助け合えるまち、近隣所で互いに支えあえるまち
- ・ 高齢者が行きたいところに自由に行ける交通網の充実したまち（サロンや地区行事への参加支援）

④今後の方向性

基本目標1 知りましょう	基本目標2 参加しましょう
・ あいさつ運動を行い地域交流を図る。 ・ 地区行事やサロンに参加し世代関係なく住民同士が顔を知れた関係をつくる。 ・ 地区の特性を活かした住民同士の交流機会の確保（自然が多い）。	・ 町内、組が中心となり助け合いの体制をつくる（日中独居者や認知症高齢者、障害者を地域で見守る）。 ・ 町内会、福祉会の運営を透明化し地域に周知 ・ 技術を持っている人が多いので、そういった方の活躍する機会をつくる。 ・ 各団体間の交流を図り良い取り組みを互いに活かす。
基本目標3 活用しましょう	基本目標4 広げましょう
・ 個人情報の適切な活用（有事の際に高齢者や障害者世帯が分かるマップづくり）。 ・ 高齢者に対して豊川市の見守りネットワーク等の活用を知らせる。 ・ 町内回覧等で地区活動の紹介を行い住民に活動を知ってもらおう。	・ 防犯訓練等を見直し防災に対する意識を高める（災害時にすぐに行ける地区ごとの避難場所を皆で考える。要援護者の支援方法等）。 ・ 町内と企業で災害時の協定を結び支援が受けられる体制をつくる。 ・ コミュニティバスの路線を見直し移動手段を確保する。

4－（４）御油地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ サロン活動を通じ高齢者と交流する場がある。 ・ 町内行事に対する協力体制が出来上がっている。 ・ お祭りを中心にさまざまな年代の方が協働する機会がある。 ・ 子どもの頃から地域との関わりがあり挨拶が出来ている。	・ サロンの後継者、福祉活動を担う人材の育成（高齢者が高齢者を支援している）。 ・ 町内会への未加入、脱退者の増加。 ・ 行事に参加しない（又は出来ない）世帯の増加。 ・ 災害時の援護体制の不安。

②まちづくりのテーマ

安心・安全な
住みよいまち御油



③5年後のまちの姿（目標）

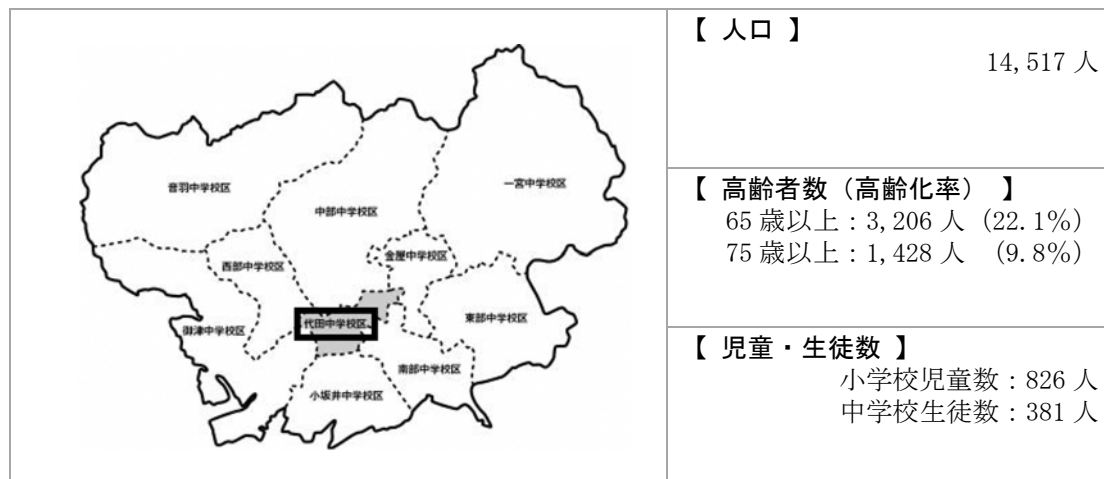
- ・ 町内行事が継続できるまち（お祭り、町民体育大会等）
- ・ 地区役員の交代がスムーズに行くまち
- ・ 気軽に顔が出せる場所があり、子どもから高齢者まで世代を超えて触れ合うことの出来るまち
- ・ 交通事故や犯罪のないまち
- ・ 災害時に「共助」が機能するまち
- ・ 住民が行きたい所に行ける交通手段の行き届いたまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ 地域の活動（行事、サロン、懇談会）をPRし、取り組みや目指す方向を住民に知ってもらう。 ・ 体育大会・祭りを中心に三世代交流の場を増やす。 ・ 男性のサロン会への参加声掛け。 ・ 隣近所での挨拶による交流。	・ 定年予定者の地域活動への取り込み。 ・ 要援護者について関係者で情報を共有。 ・ 町内会未加入者への行事参加の促し。 ・ 高齢者世帯や障害者世帯への見守り活動。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 公民館を活用し、誰でも寄れる場所をつくる。 ・ 支援が必要な人の為に地域住民同士が助け合えるコミュニティづくり。	・ 公園の活用と開発（子ども用、高齢者用の遊具や健康器具を配置し交流機会をつくる）。 ・ 災害時の情報交換、連携体制の確立。 ・ 増えている空き家対策。

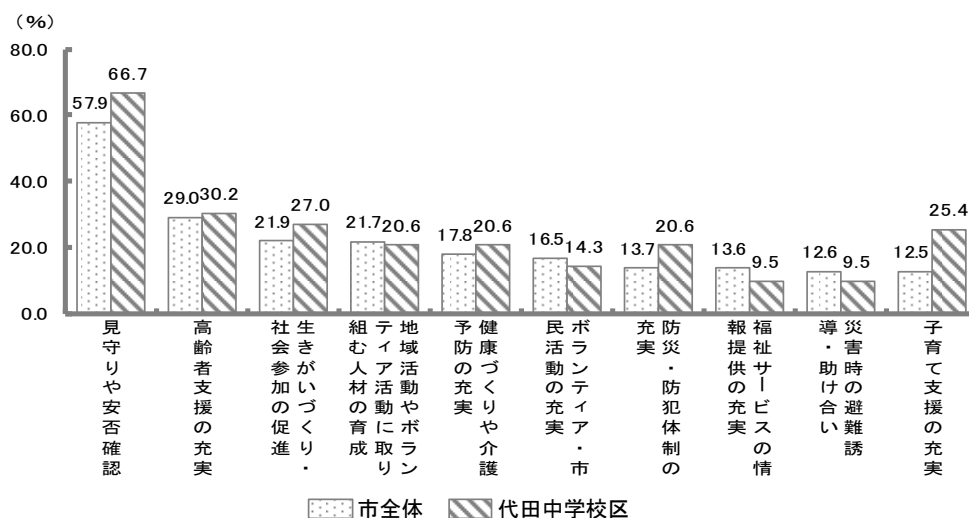
5 代田中学校区懇談会

○ 基礎データ



人口、高齢者数：住民基本台帳（平成 29 年 4 月 1 日現在）
児童・生徒数：豊川市の統計（平成 29 年 5 月 1 日現在）

○ 誰もが安心して暮らしていくために、地域で特に重要なこと（上位 10 項目）



資料：地域福祉活動に関する活動者アンケート（平成 28 年）

○ 地域特性と懇談会の開催概要

代田中学校区は、市内中央部に位置する地域で、人口は 14,517 人、高齢化率は 22.1%となっています。

活動者アンケート調査で、代田中学校区は市全体に比べて、「見守りや安否確認」「生きがいづくり・社会参加の促進」「防災・防犯体制の充実」「子育て支援の充実」などへの関心が高くなっています。

地域福祉懇談会は、3 地区に分かれて話し合いが行われ、延べ 46 人の方にご参加いただきました。

5－（１）諏訪地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 地域を良くしたいという人が多くいる。 ・ 老人を大切にする・老人クラブのまとまりが良い。 ・ 子ども会のまとまりが良い・老人クラブとのコラボ。 ・ 駅が近く、バス停もある等交通の便も比較的良好、また、治安、防犯面でも安心、安全な地域。	・ 町内活動への参加が少ない。 ・ 町内会へ加入しない世帯がある。 ・ 町内会、組あるいは組内、隣近所のつきあい、情報が少ない。 ・ 町内会未加入者は福祉のしくみ、サービスが伝わらない。 ・ 中学生が活躍できる所がない。

②まちづくりのテーマ

助け合いのできる町



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ 若い世代（20代、30代）が参加、協力できるまち
- ・ 三世代交流のさかんなまち（子どもから高齢者まで交流できる行事[場所]を実施する）
- ・ 防犯、防災に誰でも関心のもてるまち
- ・ みんなできれいにできるまち（ゴミの落ちていないきれいな町づくり）
- ・ ポジティブチケット※が定着しているまち（小・中学生から高齢者まで交流できるボランティア活動の場づくり）

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ ポジティブチケット事業の推進。 ・ 三世代交流の推進の強化、維持。 ・ 楽しい企画を考えて、交流の場を築いていく。 ・ 町内会での行事への参加。	・ 町内会への加入呼びかけ。 ・ 福祉委員の若返り。 ・ 座談会を1回/月実施。 ・ 見守り活動の維持及び、ブロック毎に犬の散歩等をする人に呼びかけて強化する。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 有償ボランティアの推進。 ・ 認知症サポーターの研修。	・ 子どもの目線で危険な場所の点検。 ・ 防犯灯を増設し夜真っ暗な場所をなくす。

※ポジティブチケット：良いことをした時にもらえるチケット。

5－（２）桜町地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
- 安全パトロールが充実している。 - 見守り隊の参加者が多い。 - 犯罪が少ない。 - 三世代交流が続いている。 - サロンが活発に活動している。	- 子育てサロンとふれあいサロンの交流がない。 - 役員の仕事が煩雑。 - 組単位の活動の充実が必要。 - 校区内のサロンの交流が必要。 - 地区間の活動の連携が必要。

②まちづくりのテーマ

世代交流がさかんなまち



③5年後のまちの姿（目標）

- 分野ごとの知識を持った指導者がいるまち
- 誰でも参加できる交流サロンがあるまち
- 三世代交流を続けるまち
- 困ったときに隣に声をかけられるまち
- サロン・ボランティアなど何かの集まりに参加しやすいまち
- 小学生が安心して通学できるまち

④今後の方向性

基本目標１ 知りましょう	基本目標２ 参加しましょう
- 高齢者と子育て世代の交流促進。 - 桜町連区主催の夏祭りの開催。 - ボランティア活動交流。	- 連絡網の組織づくり。 - 人材発掘、身近な人から情報を集める。 - 有志をつのり町内の人達を１人ずつチェックして協力してくれる人を探す。
基本目標３ 活用しましょう	基本目標４ 広げましょう
- 団体の連携強化を図る。 - 町内会への理解、協力推進。 - 福祉委員、民生委員児童委員、老人クラブ、子ども会のつながり。	- 見守り隊高齢化への対応。 - 通学路の安全確保。 - 空き家対策。 - 防災訓練への参加。

5－（3）代田地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 福祉会ができた事で、町内でお年寄りを見守ろうという意識ができた。 ・ ふれあいサロンをみなさんが楽しみにしている。 ・ 町内会組織体制が確立され、行事も充実している。 ・ 小中学校共落ち着いている（荒れてない）。	・ コミュニティバスの使い方がよくわからない。 ・ 高齢化が進み町内の役（区議員や組長）が出来ないと町内加入をやめる人がいる。 ・ 組単位で月一度位、顔合せが出来たら良い（昔はドブ掃除等で顔を合わせることが出来た）。 ・ 独居高齢者や高齢者世帯の把握がされていない。

②まちづくりのテーマ

キレイで明るいまち



③5年後のまちの姿（目標）

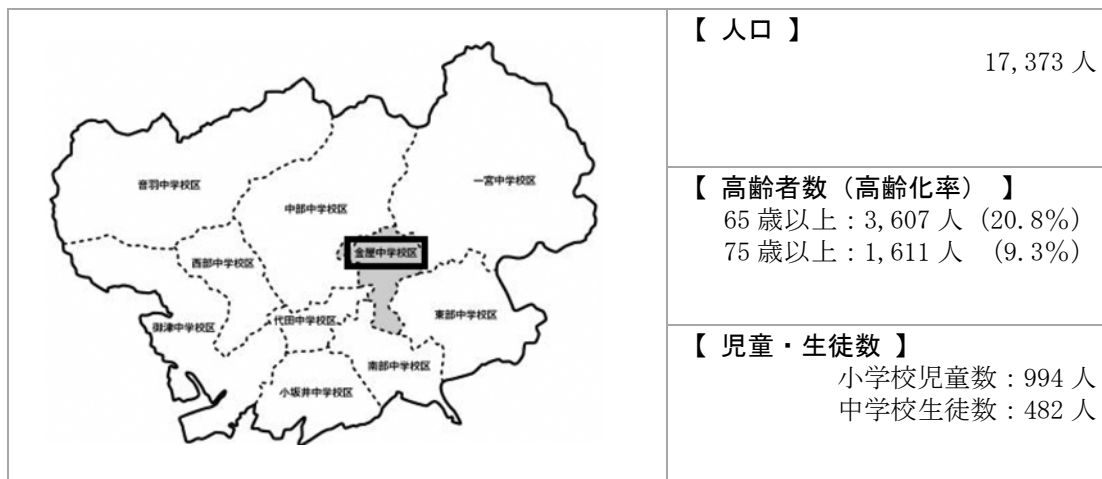
- ・ 世代間で連携ができるまち
- ・ 町内が取り組む行事に各家庭が参加するまち
- ・ ネットワークを拡大してひとり暮らしの高齢者を支援できるまち
- ・ 町内全体で防犯、幼児から高齢者までを見守ることができるまち
- ・ 組内の名前と顔が一致できるまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ 人を問わず、声かけできる環境をつくる。 ・ 清掃活動の回数を増やして交流を図る。 ・ 若い人の参加しやすい行事をつくる。 ・ 女性、子どもを取り込む行事を行う。	・ 気軽に情報交換ができる体制づくり。 ・ 青年団を復活させて行事を行う。 ・ 防災隊員の若返り。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 福祉会の活動内容を知ってもらう。 ・ 支援を必要としている人の情報交換。	・ 小学生登下校の見守り隊の組織をつくる。 ・ 自由自在な防犯パトロールの実施。 ・ 町内でテーマを決めて（挨拶・清掃など）全体で取り組む。

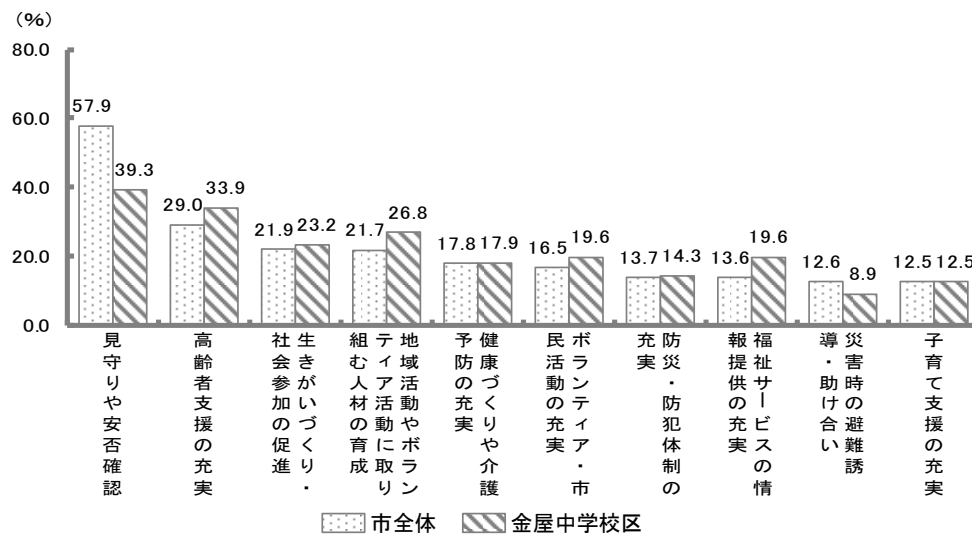
6 金屋中学校区懇談会

○ 基礎データ



人口、高齢者数：住民基本台帳（平成 29 年 4 月 1 日現在）
児童・生徒数：豊川市の統計（平成 29 年 5 月 1 日現在）

○ 誰もが安心して暮らしていくために、地域で特に重要なこと（上位 10 項目）



資料：地域福祉活動に関する活動者アンケート（平成 28 年）

○ 地域特性と懇談会の開催概要

金屋中学校区は、市内中央部に位置する地域で、人口は 17,373 人、高齢化率は 20.8%となっています。

活動者アンケート調査で、金屋中学校区は市全体に比べて、「地域活動やボランティア活動に取り組む人材の育成」「福祉サービスの情報提供の充実」などへの関心が高くなっています。

地域福祉懇談会は、3 地区に分かれて話し合いが行われ、延べ 32 人の方にご参加いただきました。

6－（１）金屋地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ スーパーが近く買物はとても便利である。 ・ バス路線もあり利便性にすぐれている。 ・ 登下校の子どもの見守りがしっかりしている。 ・ 役所関係が近い。 ・ 各行事に町内のまとまりがある。	・ 防災意識が低い。 ・ それぞれの団体がよく動いているが一般の人が、今何が行われているか知らないことが多い。 ・ 町内会加入率が低い、金楽会（老人クラブ）の加入率も低い。 ・ 町内会を退会する世帯が目立ち、役員を引き受ける人が少ない。

②まちづくりのテーマ

世代間の絆を深め
安全・安心の町



③５年後のまちの姿（目標）

- ・ 各世代が参加できるような中身を考えて三世代交流を取り入れるまち
- ・ 町内会加入率アップとPRを実施するまち
- ・ 見回り、見守り活動のできる組織づくりを強化するまち
- ・ 防災意識を高めるまち

④今後の方向性

基本目標１ 知りましょう	基本目標２ 参加しましょう
・ 三世代交流の充実（子ども会主体から連区主体への見直し）。 ・ 誰とでも気楽に挨拶のできる運動。	・ 町内会に加入してもらうための工夫。 ・ 行事参加へのPRと、町内会加入のメリットのPR。
基本目標３ 活用しましょう	基本目標４ 広げましょう
・ 福祉支援活動のPR。 ・ 高齢者の活躍できる「場」を設けることと雰囲気づくり。	・ 今ある防災組織を徹底化。 ・ 防災訓練に全員参加する。 ・ 子どもたちの見守り体制の強化。

6－（２）金屋南地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 緑や川があり自然が豊かで住みやすい。 ・ 小学校が近いので通学見廻りが安全である。 ・ 防犯灯が多く比較的 안전한地域。 ・ 行政機関等が近くに多数存在して、病院・買物・行政機関に徒歩で行けて便利。	・ 町内会地域活動への参加意識が希薄。 ・ 地域への新規加入者の町内加入の減少。 ・ 地域の活動、行事等に一定（一部）の人しか出席しない。多くの人を巻き込んで行く方法を考える必要がある。 ・ 町内会への参加の呼びかけ、ひとり暮らしの方への声かけが必要。 ・ 災害時の対応が不明確。

②まちづくりのテーマ

地域住民が共に
支え合える明るい町



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ 連区行事、参加者が多いまち
- ・ 町内会役員を決定するルールができているまち
- ・ 連区、町内会役員が退任後も支援できる体制ができているまち
- ・ 自主防災会を再構築するまち
- ・ 挨拶と声かけで明るいまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ 小学校、中学校などのボランティア活動と協力する。 ・ 連区行事の活性化（サロン、市民館まつり、盆踊りなど）。 ・ 行事等への参加を誘い合う。	・ 隣近所の連携を図る。 ・ 町内会への加入者増加。 ・ 町内会の次の時代を支える人材を発掘していく。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 交流に入らない人への情報提供。	・ 防災グッズ等を見直して蓄えていく（災害時、備蓄品の確保）。 ・ 防犯カメラを設置し、ゴミ出しのルールを守る。 ・ 自主防災会の強化。 ・ 災害時の避難ルールの作成。

6－（３）三蔵子地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 独居高齢者に食事の提供、言葉を交わす。 ・ お年寄りから子どもまで楽しく交流がもてる町内行事、三歩会、市民館まつり等がある。 ・ 三蔵子地区全体の合同サロン会がある。 ・ 緑があり、子ども達が遊べる公園・神社等がある。	・ 高齢者のトラブルが多くなった。 ・ 空き家が増えてきた。 ・ 独居老人世帯が増えている。 ・ ボランティアへの参加者が年々高齢化しており若手の協力が難しい。

②まちづくりのテーマ

やさしく笑顔でくらせる街



③5年後のまちの姿（目標）

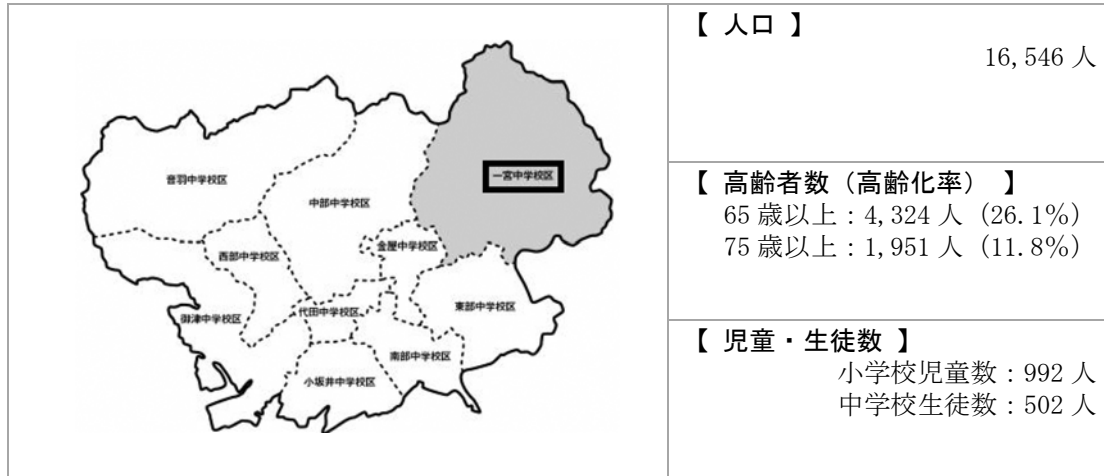
- ・ 校区、町内会の催しの充実（子どもから高齢者、障害者含む）までの全員参加を目指すまち
- ・ 各サロン会の横の繋がりを密にするまち
- ・ 近隣、組単位で助けあえるまち
- ・ 町内の高齢者に、災害時にどのようなサポートが必要か聞いておくことができるまち
- ・ 校区内の変化を多数の目で見て安心できるまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ サロン交流する場が多数あると良い。年齢、趣味が違うから。 ・ 男性の参加をどの様につのるか検討する。	・ サロン会に若い人も手伝いに参加するように声かけをする。 ・ 大人、子ども、乳児と合同でサロンをする。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ ボランティアにポイント制度を作り、ボランティア参加者を増していく。 ・ 支援、体制に関する取り組みの見える化。組織、支援の系統図などをつくる。	・ 町内会の組長、班長を対象にした防災を含む福祉全般の勉強会を行う。 ・ 住民が参加できる防災訓練を実施する。

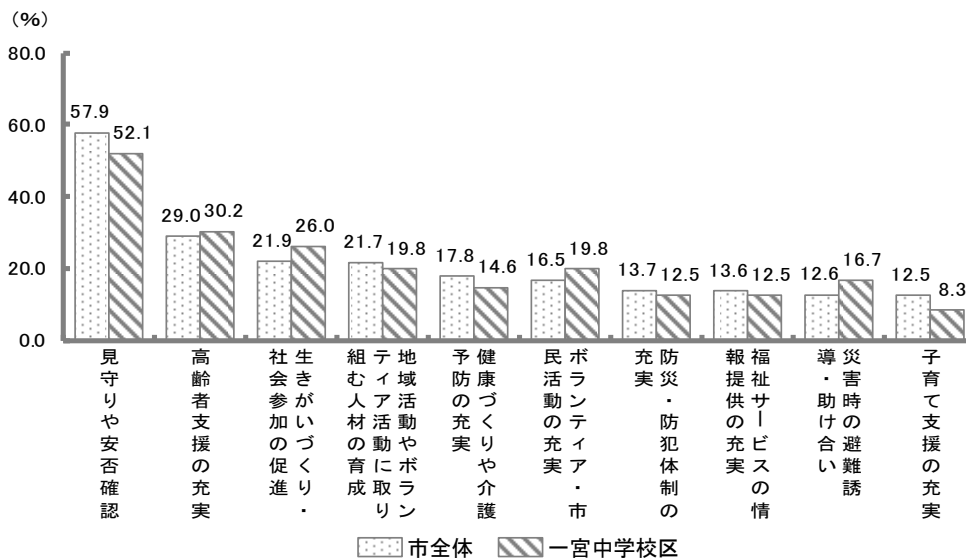
7 一宮中学校区懇談会

○ 基礎データ



人口、高齢者数：住民基本台帳（平成 29 年 4 月 1 日現在）
児童・生徒数：豊川市の統計（平成 29 年 5 月 1 日現在）

○ 誰もが安心して暮らしていくために、地域で特に重要なこと（上位 10 項目）



資料：地域福祉活動に関する活動者アンケート（平成 28 年）

○ 地域特性と懇談会の開催概要

一宮中学校区は、市内北東部に位置する地域で、人口は 16,546 人、高齢化率は 26.1%となっています。

活動者アンケート調査で、一宮中学校区は市全体に比べて、「生きがいのづくり・社会参加の促進」「災害時の避難誘導・助け合い」などへの関心が高くなっています。

地域福祉懇談会は、3 地区に分かれて話し合いが行われ、延べ 46 人の方にご参加いただきました。

7－（１）一宮西部地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
- 子ども会、老人クラブ等各種団体の活動が活発に行われている。 - 交通指導隊や防犯パトロール隊の活動が活発に行われている。 - 地域のスポーツ活動が盛んである。 - 地域コミュニティに多くの参加がある。	- 地域のリーダーなどの人材育成が必要である。 - 社会的弱者や要援護者への福祉対策、福祉活動が必要である。 - 見回り対象者が点在しており、災害時の把握が困難である。 - ワンコインサービスのPRと周知がなされていない。

②まちづくりのテーマ

声をかけあい、みんなの
顔がみえるまち



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ 町民全員で超高齢化社会への福祉対策や福祉活動に取り組めるまち
- ・ 世代間交流サロンがあるまち
- ・ 自分も隣近所も同じ気持ちで支えあえるまち
- ・ 防災への備えのあるまち

④今後の方向性

基本目標１ 知りましょう	基本目標２ 参加しましょう
・ 地域みんなで福祉を学ぶ機会をつくる。 ・ ふれあいサロン、老人クラブ、地域のイベントを通じて交流活動を行う。 ・ 大きな声で挨拶をする習慣づくりをする。	・ それぞれの組織（民生委員、福祉委員等）との情報交換、交流を行う。 ・ 町内会の加入率を上げる。
基本目標３ 活用しましょう	基本目標４ 広げましょう
・ 生活支援サービスの案内を配布する。 ・ 福祉の手引書を配布し、みんなが分かるようにする。	・ 防犯パトロールを強化する。 ・ 地域の安全安心のため、自然災害を想定した防災設備の設置をする。

7－（２）一宮南部地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 町内会加入率が高い。 ・ 町内会の作業に全員が参加している。 ・ 「福祉会」によって地域内の部会、団体の協働が図られている。 ・ サロンによって交流が図られている。	・ 高齢者世帯や一人世帯が増加している。 ・ リーダー、活動者、参加者が固定化している。 ・ 高齢者世帯のゴミ出し、買い物支援が必要である。 ・ 自主防災組織の再構築が必要である。 ・ 地域の防災活動と要支援者との関係構築が必要である。

②まちづくりのテーマ

あったかい人情のまち



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ 福祉会等の組織に女性が多く参画するまち
- ・ あいさつ運動が盛んに行われるまち
- ・ 三世代交流事業が盛んなまち
- ・ 見守り隊や交通指導隊、市や区と協働して、防災・防犯が強いまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ 地区のお祭りなどのコミュニティ活動を全世帯に対し知ってもらう。 ・ サロン会、グラウンドゴルフ後の茶話会等交流の場を増やしていく。	・ 連区内のスポーツ活動を進める。 ・ 町内会と福祉会との協働を進める。 ・ 福祉会の意見をまとめ、町内会へも反映させていきたい。 ・ 町内会、民生委員、福祉会との協働による見守りネットワークを構築する。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 区での必要なサービスの取り組みを増やしていく。	・ 防災組織の見直しを行う。 ・ 災害時の名簿を作成する。

7－（3）一宮東部地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 近隣や地域内の状況がほぼ把握できている。 ・ 近所付き合いが残っており、性格も温厚な人が多い。 ・ お互いの顔と生活状況が見え、絆が深く温かい。 ・ 行事等で住民の協力がある。	・ 若者の行事への参加が少ない。 ・ 近くに気軽に行けるコミュニティセンターがない。 ・ 人材は多いが、全体をまとめるリーダーが少ない。

②まちづくりのテーマ

自立したコミュニティ
社会実現をめざして



③5年後のまちの姿（目標）

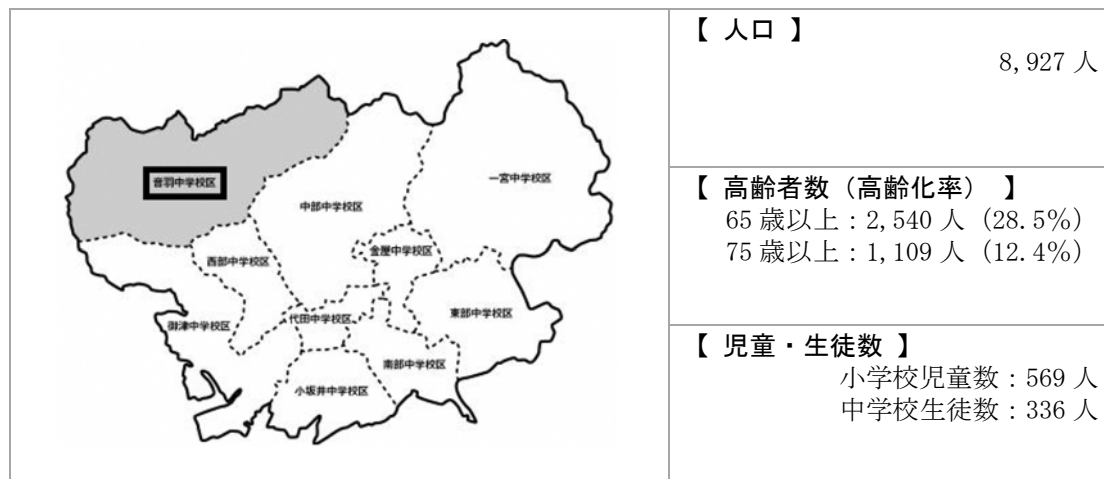
- ・ 高齢者や障害者、乳幼児等に優しい思いやりに溢れた人材が豊富なまち
- ・ 誰もが参加できる開かれた楽しいサロン、バザー等の地域活動が盛んなまち
- ・ 町内会と福祉会との相互理解により、自助、共助（協助）、公助体制が整備されたまち
- ・ ボランティア活動への関心と参加意欲に満ちたまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ 地域活動や行事への参画の呼びかけ。 ・ 夏祭り等の三世代交流事業の実施。 ・ 町内会と福祉会が連携した楽しい催し物を実施する。	・ 福祉やボランティアに関心の高い人を発掘し、委員会活動を活発化する。 ・ 町内会と福祉会の協力、相互理解。 ・ 人材確保とリーダー育成に尽力する。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 障害者、高齢者等への目配りや声掛けなど気軽な手助けをする。	・ 児童の見守りや安否確認を行う。 ・ 青パトによる巡回パトロールを行う。 ・ 危険箇所の点検、防犯灯の管理等地域全体で防犯に向けた取り組みを行う。

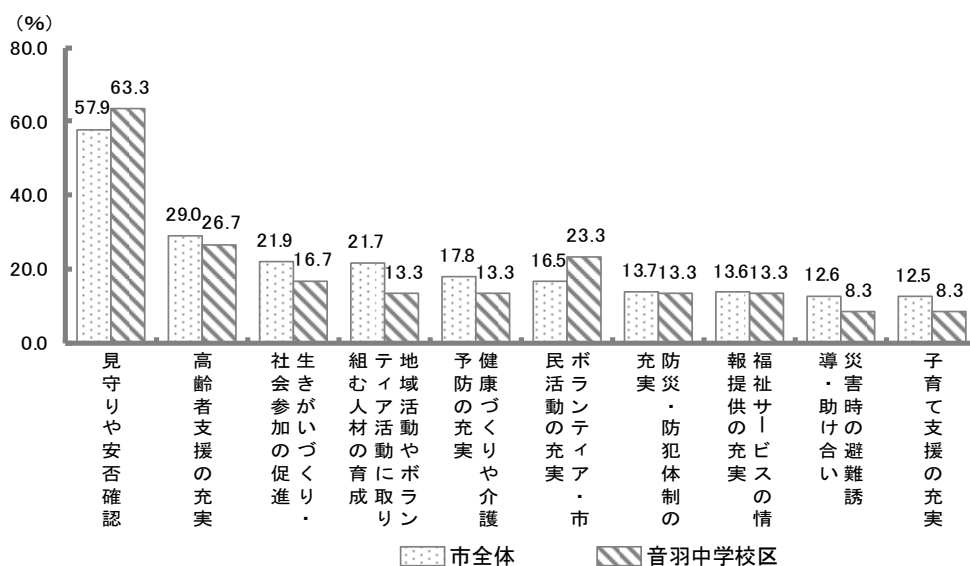
8 音羽中学校区懇談会

○ 基礎データ



人口、高齢者数：住民基本台帳（平成 29 年 4 月 1 日現在）
児童・生徒数：豊川市の統計（平成 29 年 5 月 1 日現在）

○ 誰もが安心して暮らしていくために、地域で特に重要なこと（上位 10 項目）



資料：地域福祉活動に関する活動者アンケート（平成 28 年）

○ 地域特性と懇談会の開催概要

音羽中学校区は、市内北西部に位置する地域で、人口は 8,927 人と市内中学校区で最も少なく、高齢化率は 28.5%となっています。

活動者アンケート調査で、音羽中学校区は市全体に比べて、「見守りや安否確認」「ボランティア・市民活動の充実」などへの関心が高くなっています。

地域福祉懇談会は、延べ 15 人の方にご参加いただきました。

8－（１）音羽地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 自然が豊かな地区。 ・ 町内会・自治会・民生委員活動等がうまく運営されている。 ・ 生活困窮家庭が少ない。 ・ 少年の非行が少ない。	・ サロンボランティアの高齢化。 ・ 山手側の住宅地においては、高齢者が車に乗れなくなったときに買い物や通院等が不便。 ・ 認知症の人へ地域としてどのように対応していくか。

②まちづくりのテーマ

人にやさしく緑豊かな
文化を愛するまち音羽



③5年後のまちの姿（目標）

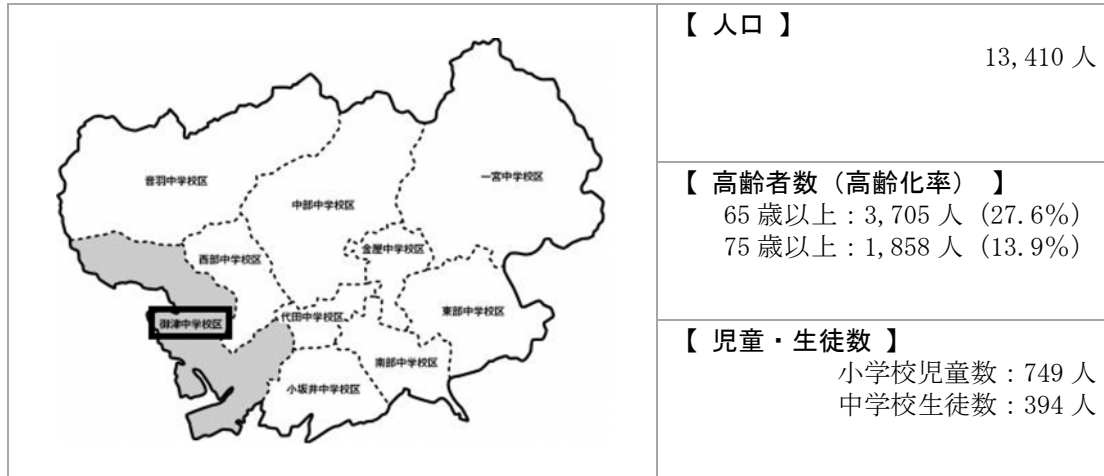
- ・ ボランティア活動を楽しめるまち
- ・ 市民館や各地区集会所を利用して集いの場があるまち
- ・ サロン活動に若い人も参加できるようになっているまち
- ・ 買い物に困らないよう、移送サービスや買い物ボランティア等に頼むことができるまち
- ・ 災害が発生した時にすぐ活動できる体制が整っているまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ 福祉会やサロン等の地域組織のPR活動を強化する。 ・ 地域主催の行事等で幅広く参加者を募り、交流の機会を増やす。 ・ 世代交流の場を積極的に増やす。 ・ 空き家を活用し、住民が交流できる場を設ける。	・ 地域全体で地区の活動に取り組む。 ・ 町内会、福祉会、ボランティア等の組織強化を行い、連携を深める。 ・ 地域で見守り、支え合いができる体制づくりを行う。 ・ 地域の支援者の負担を減らせる体制づくりを行う。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 介護施設内の地域交流スペースを活用する。	・ 防災組織を充実させ、災害時のマニュアルを整える。 ・ 住民から住民へと良い伝統・文化を伝える取り組みを行う。

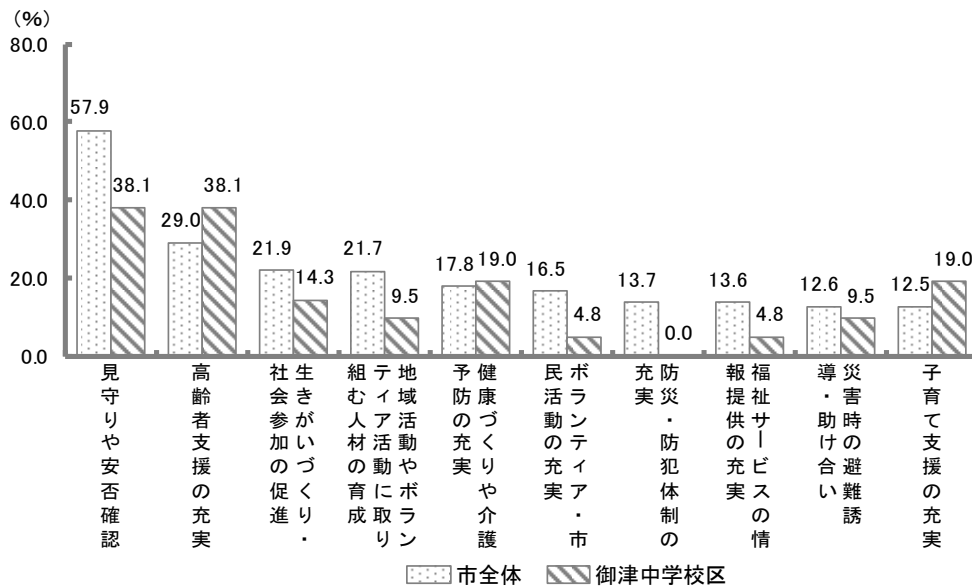
9 御津中学校区懇談会

○ 基礎データ



人口、高齢者数：住民基本台帳（平成 29 年 4 月 1 日現在）
児童・生徒数：豊川市の統計（平成 29 年 5 月 1 日現在）

○ 誰もが安心して暮らしていくために、地域で特に重要なこと（上位 10 項目）



資料：地域福祉活動に関する活動者アンケート（平成 28 年）

○ 地域特性と懇談会の開催概要

御津中学校区は、市内南西部に位置する地域で、人口は 13,410 人、高齢化率は 27.6%となっています。

活動者アンケート調査で、御津中学校区は市全体に比べて、「高齢者支援の充実」「子育て支援の充実」などへの関心が高くなっています。

地域福祉懇談会は、2 地区に分かれて話し合いが行われ、延べ 45 人の方にご参加いただきました。

9－（１）御津北部地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 安心安全で住みやすい地域。 ・ 田・畑・山・川などいろいろな住みやすい環境がある。 ・ 小さな集落のため一人ひとりの生活がわかり、あいさつ・会話がしやすい。	・ コミュニティバスの利用がしにくい。 ・ 地域福祉に参加する意識が低い。 ・ 高齢者の1人世帯が増える。 ・ 要支援者の把握が必要。 ・ 老人クラブ、こども会、PTA各組織の連携や、世代間交流が必要。

②まちづくりのテーマ

みんなで協力
住みよい環境



③5年後のまちの姿（目標）

- ・ 町内会活動と一体になって推進できるまち
- ・ 三世代交流イベントができるまち
- ・ 子ども見守り隊があるまち
- ・ 安全パトロール隊が組織されているまち
- ・ 近所との連携ができる安心安全なまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ 地域合同サロン会の開催。 ・ 高齢者が気軽に立ち寄れる場所をつくる。 ・ 三世代交流が出来るイベントを行う。	・ 防災リーダー、コミュニティリーダー等の養成講座に参加する。 ・ 関係者間（町内会、PTA、福祉会など）の連携を図る。 ・ 常にふれあい、見守り支えあいの気持ちを心にもつ。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 地域活動の情報を共有する。	・ 町内会としての防災体制をつくる。 ・ 小学校単位で防災訓練を復活。 ・ コミュニティバスの利用が増えるためにどのようにしたらよいか、利用したいと思っている方を把握し、利用方法を考える。 ・ 子ども見守り隊の充実。 ・ 県道の交差点ごとに人を立てる。

9－（２）御津南部地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ お祭りが江戸時代から続いている。 ・ 山・川・海など自然が多い。 ・ 高齢者と一緒に住んでいる世帯が多い。	・ 祭礼での伝統・文化を守っていくことが、人手不足経費面で困難になってきている。 ・ 役員のなり手がいない。 ・ コミュニティバスの利用者が少ない。 ・ ひとり暮らし、空家が増えつつある。

②まちづくりのテーマ

歴史と伝統と地区の絆を
大切にする町



③5年後のまちの姿（目標）

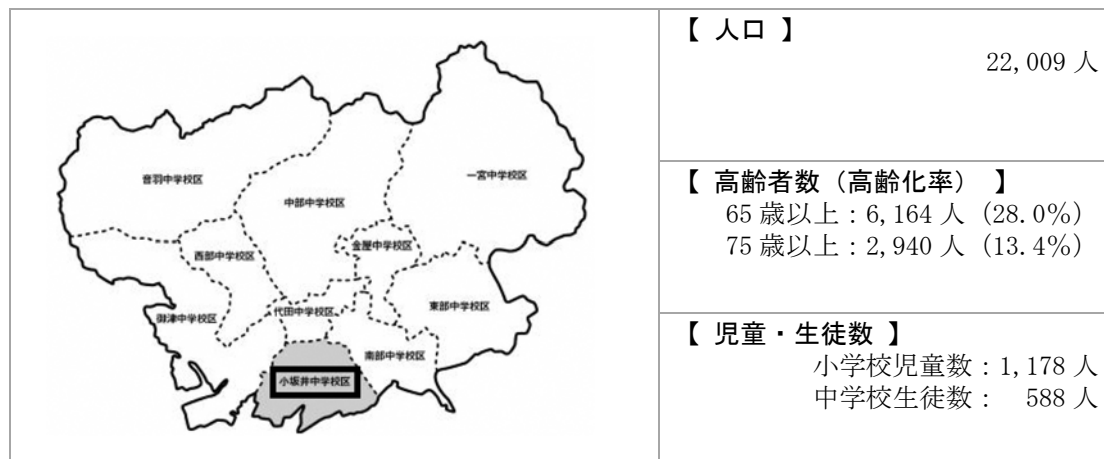
- ・ 社会参加できる足の確保ができるまち
- ・ 若い人が住む土地を提供し受け入れるまち
- ・ 皆で支え合えるまち
- ・ 安心安全なまち

④今後の方向性

基本目標 1 知りましょう	基本目標 2 参加しましょう
・ 挨拶運動、交通指導、町内会運動会で世代を超えた交流。 ・ 地区のカラオケ、サロン会、グラウンドゴルフなど仲間づくりの活性化。 ・ 子ども会と老人クラブとのふれあい交流。 ・ 御津町全体の体育祭（大会）を復活。	・ ボランティア活動をやりたい人、受けたい人の窓口をつくる。 ・ 世話役にあまり負担をかけないような取り組み。 ・ 民生委員児童委員や地域支援者と協働でひとり暮らしの見守りをする。 ・ 住民は全戸町内会に加入する。
基本目標 3 活用しましょう	基本目標 4 広げましょう
・ 各種組織との交流会を年2回実施し、その中で町内の事を理解し知ってもらう。	・ 海岸における危険防止の強化。 ・ 子どもたちの登下校の見守り支援。 ・ 運転免許証を返納した買い物困難な人の支援。

10 小坂井中学校区懇談会

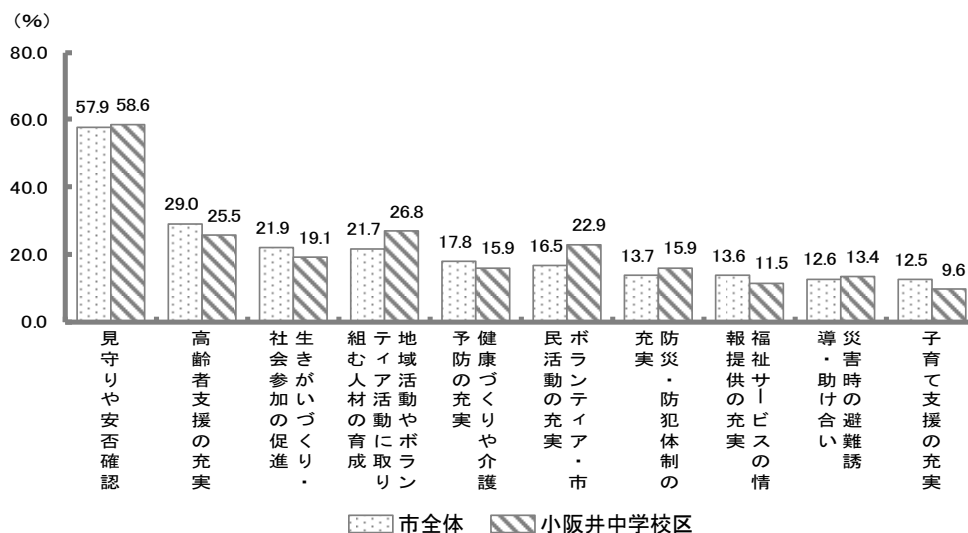
○ 基礎データ



人口、高齢者数：住民基本台帳（平成 29 年 4 月 1 日現在）

児童・生徒数：豊川市の統計（平成 29 年 5 月 1 日現在）

○ 誰もが安心して暮らしていくために、地域で特に重要なこと（上位 10 項目）



資料：地域福祉活動に関する活動者アンケート（平成 28 年）

○ 地域特性と懇談会の開催概要

小坂井中学校区は、市内南部に位置する地域で、人口は 22,009 人、高齢化率は 28.0%となっています。

活動者アンケート調査で、小坂井中学校区は市全体に比べて、「地域活動やボランティア活動に取り組む人材の育成」「ボランティア・市民活動の充実」などへの関心が高くなっています。

地域福祉懇談会は、3 地区に分かれて話し合いが行われ、延べ 34 人の方にご参加いただきました。

10—（１）小坂井地区

①「地域のよいところ」と「地域の課題」

地域のよいところ	地域の課題（主なもの）
・ 交通の便が良い。 ・ 地区のまとまりが良い。 ・ 町内行事や清掃活動の参加者が多い。 ・ 老人クラブの活動が継続している。 ・ ゴミステーションのゴミ出しルールが守られている。	・ 新しく転居してきた人たちとの関わりが薄い。 ・ 空き家が増えている。 ・ 高齢化が進みボランティアのなり手が見つかりにくい。 ・ サロンの参加者が固定化されなかなか増えない。 ・ 地域の活動リーダーのなり手がいない。

②まちづくりのテーマ

世代がつながるまち
みんなで声を掛け合えるまち



③５年後のまちの姿（目標）

- ・ 世代間を通じて福祉や防災を学び活動に繋げるまち
- ・ お祭りなど行事にみんなが参加できるまち
- ・ できることを少しずつ持ちより助け合えるまち
- ・ 近隣の人と仲良くできるまち

④今後の方向性

基本目標１ 知りましょう	基本目標２ 参加しましょう
・ 子ども会、サロン、老人クラブと一緒にできる活動を増やす（例：ラジオ体操）。 ・ 中学生や独身世代も関われる取り組みをつくる。 ・ 隣近所にあいさつをする。 ・ 若い人が参加できる体制づくり。	・ 町内集会所を地域のたまり場として活用する。 ・ 町内会の加入促進。 ・ 広報・啓発を利用して活動できる人、意識のある人の発掘。
基本目標３ 活用しましょう	基本目標４ 広げましょう
・ 町内会で福祉を学ぶ機会をつくる。	・ 避難訓練を三世代で行う。 ・ 空き地の有効利用（例：花壇をつくる）。 ・ 子どもの目線で見守り交通安全活動。

資料編

1 策定経緯

年 月	項 目	内容等
平成 28 年		
7月～9月	地域福祉懇談会（社協）	10 中学校区 34 地区で、住民ワークショップを開催 地区の取り組みの進捗状況と課題の抽出
9月～12月	市民アンケート調査素案作成 地域福祉活動者アンケート調査素案作成（社協）	アンケート項目の検討
11 月～1 月	地域福祉に関する活動者アンケート調査（社協）	市内の活動者（民生委員児童委員、福祉委員、ボランティア） 【回収率 60.2%】
12 月 22 日	第 3 次豊川市地域福祉計画 第 1 回策定委員会	正副委員長の選任 市民アンケート及び地域福祉活動者アンケート調査について 今後の予定について
平成 29 年		
1 月 13 日 ～31 日	地域福祉に関する市民アンケート調査	無作為抽出の 20 歳以上の市民 2,000 人に配布 【回収率 45.1%】
6 月 27 日	第 2 回策定委員会	市民アンケート調査及び活動者アンケート調査結果報告 計画の策定にあたって 計画の体系（基本理念）について 市の人口・世帯状況など

年 月	項 目	内容等
6月～10月	関係団体ヒアリング（社協）	地域福祉関係6団体への聞き取りを実施
6月～11月	市関係部署検討部会	検討部会について
		事業評価シートの作成について
		第3次計画の方向性の確認について
		計画（案）の確認について
6月～2月	社会福祉協議会作業部会（社協）	9回開催
		地域福祉懇談会～社会福祉協議会の主な事業について
7月～9月	地域福祉懇談会（社協）	10 中学校区 34 地区で、各住民ワークショップを開催
		それぞれの地区の今後の具体的な取り組みについての検討
9月28日	第3回策定委員会	各種ヒアリング結果（地域、団体、社協、行政）の報告について
		施策の課題整理と第3次計画の方向性(案)について
		第3次計画の目次構成(案)及び重点取り組みについて
11月20日	第4回策定委員会	地域福祉計画（案）について
平成30年		
1月6日～2月5日	パブリックコメント※	地域福祉計画（案）のパブリックコメント (市ホームページやその他公共施設にて公開・閲覧)
2月22日	第5回策定委員会	地域福祉計画（案）の検討・承認について

※パブリックコメント：公的な機関が規則の設定や改廃をしようとするときに、広く公に、意見・情報・改善案などを求める手続をいう。公的な機関が規則などを定める前に、その影響が及ぶ対象者などの意見を事前に聴取し、その結果を反映させることによって、政策の公正性・透明性の向上を目指すものである。

2 設置要綱・委員名簿

第3次豊川市地域福祉計画策定委員会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 第3次豊川市地域福祉計画（以下「福祉計画」という。）の策定にあたり、本市の地域福祉に関する理念や方向性、地域福祉の推進に必要な事項について、幅広い視野からの意見を反映し協議するため、第3次豊川市地域福祉計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、別表に掲げる者で組織し、市長が委嘱し、又は任命する。

(任期)

第3条 委員の任期は、委嘱した日から平成30年3月31日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会の会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議等)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

3 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

4 委員会は、必要に応じて会議に関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務局は、福祉部福祉課に置く。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年9月1日から施行する。

別表（第2条関係）

- 1 学識経験者
- 2 次に掲げる団体を代表する者
 - 豊川市連区長会
 - 豊川市民生委員児童委員協議会
 - 豊川市障害者（児）団体連絡協議会連絡会
 - 豊川市社会福祉協議会
 - 豊川市老人クラブ連合会
 - 豊川市ボランティア連絡協議会
 - 豊川市小中学校長会（福祉安全委員）
 - 豊川市社会福祉施設協会
 - 豊川市介護保険関係事業者連絡協議会
 - 福祉 NPO 団体（子育て関係）
 - 地域福祉活動推進委員会（地域福祉活動者）
 - 豊川市社会福祉事務所
- 3 公募した市民

■第3次豊川市地域福祉計画策定委員会委員名簿

	氏 名	団 体 名 等	備 考
1	西村 正広	学識経験者（愛知大学地域政策部教授）	委員長
2	中尾 清吉	豊川市連区長会	
3	西本 全秀	豊川市民生委員児童委員協議会	
4	田中しづ江	豊川市障害者（児）団体連絡協議会	
5	竹下 一正	社会福祉法人豊川市社会福祉協議会	
6	川上 陽子	豊川市老人クラブ連合会	～H29.4.20
	杉浦 正勝		H29.4.21～
7	野村 公樹	豊川市ボランティア連絡協議会	副委員長
8	小 島 修	豊川市小中学校長会	
9	都築 裕之	豊川市社会福祉施設協会	
10	平田 節雄	豊川市介護保険関係事業者連絡協議会	
11	伊奈 克美	特定非営利活動法人とよかわ子育てネット	
12	岡田 文男	地域福祉活動推進委員会（地域福祉活動者）	
13	松井 秀之	公募した市民	

（敬称略 期間 平成28年12月1日から平成30年3月31日まで）

第3次豊川市地域福祉計画策定検討部会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 第3次豊川市地域福祉計画（以下「本計画」という。）を策定するにあたり、市等の関係部局から幅広く意見を聴取するために、第3次豊川市地域福祉計画策定検討部会（以下「検討部会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 検討部会は、次に掲げる事項を検討する。

- (1) 計画に係る現状分析及び評価に関すること
- (2) 計画案の策定に関すること
- (3) その他、計画策定について必要な事項に関すること

(構成)

第3条 検討部会は、別表に掲げる部会員によって構成する。

(部会長)

第4条 検討部会に部会長を置き、福祉部福祉課長をもって充てる。

(会議等)

第5条 検討部会の開催については、会議または個別ヒアリングとし、部会長が招集する。

2 部会長は、会議の議長となる。

3 検討部会は、必要に応じて会議または個別ヒアリングに関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 検討部会の庶務は、福祉部福祉課において処理するものとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討部会の運営に関し必要な事項は部会長が定める。

附 則

この要綱は、平成29年6月15日から施行する。

第3次豊川市地域福祉計画（第4次豊川市地域福祉活動計画）
策定作業部会設置要綱

（目的）

第1条 この要綱は、第3次豊川市地域福祉計画（第4次豊川市地域福祉活動計画）の策定にあたり、必要な調査、研究を行うとともに、意見の集約を図るため、豊川市社会福祉協議会（以下「協議会」という。）に設置する豊川市地域福祉計画策定作業部会（以下「作業部会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（構成）

第2条 作業部会は、協議会職員のうち会長が任命する職員をもって構成する。

（部会長及び副部会長）

第3条 作業部会に部会長及び副部会長各1名を置く。

2 部会長は会長が指名し、副部会長は部会長が指名する。

（会議）

第4条 作業部会は部会長が招集し、会議を主宰する。

2 部会長に事故あるときは、副部会長がその職務を代理する。

（関係者の出席）

第5条 部会長は、必要があると認めるときは、作業部会に関係者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

（事務局）

第6条 作業部会の事務局は、地域福祉課地域福祉係に置く。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、作業部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

附 則

この要綱は、平成29年6月15日から施行する。

第 3 次豊川市地域福祉計画

発 行 :	豊川市・豊川市社会福祉協議会	
住 所 :	豊川市	豊川市社会福祉協議会
	福祉部福祉課	地域福祉課
	〒442-8601	〒442-0068
	豊川市諏訪 1 丁目 1 番地	豊川市諏訪 3 丁目 242 番地
	TEL 0533-89-2131	TEL 0533-83-5211
	FAX 0533-89-2137	FAX 0533-89-0662
発行年月 :	平成 30 年 3 月	
